ISSN 0918-1946

調 査 年 報 14

平 成 13 年 度

財団法人　北海道埋蔵文化財センター

調 査 年 報 14

平 成 13 年 度

財団法人　北海道埋蔵文化財センター

八雲町　野田生 1 遺跡　航空写真

八雲町　野田生 1 遺跡　遺構調査状況

根室市　穂香竪穴群　竪穴住居跡調査状況

根室市　穂香竪穴群　動物意匠の付いた縄文土器

目　　次

平成13年度の調査
1　調査の概要……1
2　調査遺跡……4
チプニー1遺跡……4
チプニー2遺跡……8
虎杖浜2遺跡……10
宮戸4遺跡……12
穂香竪穴群……18
白滝遺跡群……22
上白滝6遺跡の調査……24
白滝3遺跡の調査……24
下白滝遺跡の調査……24
白滝遺跡群の整理……30
対雁2遺跡……32
野田生1遺跡……36
野田生2遺跡……40
野田生4遺跡……44
落部1遺跡……46
栄浜1遺跡……48
山崎5遺跡……52
山越3遺跡……52
山越4遺跡……53
本内川右岸遺跡……54
濁川左岸遺跡……56
キウス4遺跡……60
ユカンボシC15遺跡……62
ケネフチ9遺跡……64
西島松5遺跡……66
西島松9遺跡……69
3　研修・研究会等……72
4　資料貸出し等……76
5　平成13年度刊行予定報告書一覧……77
6　組織・機構……78
7　職員……79
8　訃報……80

平成13年度の調査

1　調査の概要

今年度は道内９市町村に所在する18遺跡で発掘調査を実施した。このうち７遺跡は昨年度に続く調査である。

原因工事別にみると、北海道開発局の各建設部が実施する河川、あるいは国道の建設や改良に伴う調査が８遺跡、日本道路公団が実施中の高速道路建設に関連するものが６遺跡、土木現業所が実施する道路改良、河川改修に伴う調査が３遺跡である。このほか整理作業・報告書作成作業のみを実施したものが５遺跡ある。以下調査の成果を時代順に要約する。

[発掘調査]

旧石器時代

上白滝６遺跡は平成10年に続く調査で、北側地区では尖頭器を含む石器群のブロックが１ヵ所発見されている。白滝３遺跡では、西側部分で有舌尖頭器、彫器、掻器、石刃核、石核の出土するブロックが３ヵ所調査され、東側部分には尖頭器、小型のものを含む舟底形石器、彫器、掻器、錐形石器、石刃核、石核が出土するブロックが認められた。なお、白滝遺跡群の資料の整理作業を前年に引き続き実施し、今年度に『白滝遺跡群Ⅲ』の報告書の刊行を予定している。

縄文時代

縄文時代の遺跡は、早期から晩期に及ぶ各時期の遺跡が調査されている。

(早期)

早期中頃の道東の石刃鏃石器群の遺跡が上白滝６遺跡南側地区で調査されている。

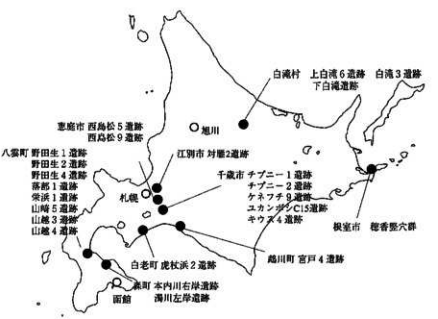
早期前葉から中頃にかけての貝殻文土器、条痕文土器は西島松９、虎杖浜２、栄浜１、野田生２遺跡で出土している。早期後半の土器・石器はチプニー１、チプニー２、ケネフチ９、西島松５、西島松９、宮戸４の各遺跡で認められ、宮戸４、西島松５遺跡では住居跡とみなされるものが調査されている。穂香竪穴群では早期の石器が発見された。

(前期)

前期前半の土器片の出土する遺跡は宮戸４、ケネフチ９、西島松５遺跡にあり、宮戸４遺跡では、土偶？が出土している。前期後半の貝塚、盛土遺構、住居の跡とみなされるものは虎杖浜２遺跡で調査された。西島松５、濁川左岸遺跡でも住居跡が発見されている。

(中期)

宮戸４、野田生１、野田生２、落部１、栄浜１、本内川右岸、濁川左岸、西島松５、西島松９遺跡で調査され、野田生１、野田生２遺跡、落部１、栄浜１、西



平成13年度　発掘調査遺跡の位置

島松５、西島松９遺跡ではこの時期の住居跡が知られた。

（後期）

チプニー１、宮戸４、穂香、野田生１、落部１、栄浜１、本内川右岸、濁川左岸、ケネフチ９、西島松５遺跡で調査されている。栄浜１、濁川左岸遺跡では前葉、野田生１遺跡では中～後葉の集落が知られ、西島松５遺跡には後期から晩期に及ぶ盛土遺構が存在した。穂香では初頭の時期のクマの動物意匠のある土器が発見された。

（晩期）

チプニー１、チプニー２、宮戸４、対雁２、落部１、栄浜１、西島松５、西島松９遺跡で調査されている。住居跡などは知られないが、対雁２遺跡では後葉の時期の多数の焼土とピットが検出されている。

続縄文時代

宮戸４遺跡ではスレート製の石鏃が出土し、野田生１、野田生２、栄浜１、濁川左岸遺跡で前期の土器が発見され、墓や焼土などの遺構が調査されている。落部１遺跡では後期の後北C_2式土器が出土した。

擦文時代

チプニー１、宮戸４、穂香、栄浜１、西島松５、西島松９遺跡で調査されている。チプニー１遺跡では、竪穴住居を伴わず、多くの焼土と遺物が出土した。穂香竪穴群では、擦文時代終末期の竪穴住居跡の一群が調査されている。

中・近世

チプニー１、ケネフチ９遺跡で調査された。

整理作業・報告書作成作業

キウス４遺跡、ユカンボシC15遺跡の資料の整理作業は前年に引き続き実施されている。このうち今年度に「ユカンボシC15遺跡（５）」の報告書の刊行を予定している。これらの遺跡の資料の整理作業はなお次年度へ続く。また八雲町山崎５、山越３、山越４、野田生４遺跡の報告書作成作業が行われている。

○平成13年度の発掘調査

事業委託者	原因工事	遺跡名	所在地	調査面積（㎡）	時代
札幌開発建設部	一般国道337号新千歳空港関連工事	チプニー１	千歳市	4,360	新規
		チプニー２		450	
室蘭開発建設部	一般国道36号登別拡幅工事（虎杖浜工区）	虎杖浜２	白老町	2,010	H11から継続
	日高自動車道厚真門別工事	宮戸４	鵡川町	5,310	H12から継続
釧路開発建設部	一般国道44号根室道路工事	穂香竪穴群	根室市	8,000	新規
網走開発建設部	一般国道450号白滝丸瀬布道路工事	上白滝６	白滝村	670	新規
		白滝３		2,900	新規
		下白滝		90	新規
		白滝遺跡群			整理作業
石狩川開発建設部	石狩川改修対雁橋梁工事	対雁２	江別市	1,500	H11から継続
日本道路公団 北海道支社	北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）建設工事	野田生１	八雲町	8,476	H12から継続
		野田生２		2,186	H12から継続
		落部１		5,471	新規
		栄浜１		21,700	H12から継続
		本内川右岸	森町	2,746	新規
		濁川左岸遺跡		1,300	新規
		山崎５・山越３	八雲町		整理作業
		山越４・野田生４			整理作業
	北海道横断自動車道（千歳～夕張）建設工事	キウス４	千歳市		整理作業
		ユカンボシC15			整理作業
札幌土木現業所	道道舞鶴浦分線特改１種工事	ケネフチ９	千歳市	320	新規
	柏木川改修工事	西島松５	恵庭市	3,123	H11から継続
		西島松９		1,800	新規
				72,412	

北海道史略年表

本州の時代区分	年代（西暦）	北海道の時代区分		H.13調査遺跡の主な時期
明治～平成	A.D.1900	（近代・現代）		
江戸時代	A.D.1600	近世	アイヌ文化期	チプニー１
室町時代	A.D.1300	中世		ユカンボシC15
鎌倉時代	A.D.1200			
平安時代	A.D. 800	擦文時代	オホーツク文化期	穂香竪穴群 栄浜１ チプニー１ 宮戸４
奈良時代				
古墳時代	A.D. 600			西島松５ 西島松９
弥生時代	A.D. 400	続縄文時代		野田生１ 野田生２ 落部１ 栄浜１ 湯川左岸
縄文時代	B.C. 300	縄文時代	晩期	対雁２ チプニー１ チプニー２ 宮戸４ 落部１ 栄浜１ 野田生4
	B.C. 1000		後期	西島松５ チプニー１ 宮戸４ 野田生1 キウス４ 落部１ 栄浜１ 本内川右岸 湯川左岸 ケネフチ９ 穂香竪穴群 宮戸４
	B.C. 2000		中期	栄浜１ 西島松５ 西島松９ 宮戸４ 山越３ 山越４ 野田生１ 野田生２ 野田生４ 落部１ 本内川右岸 湯川左岸
	B.C. 3000		前期	栄浜１ 虎杖浜２ 西島松５ ケネフチ９ 宮戸４
	B.C. 4000		早期	宮戸４ ケネフチ９ 湯川左岸 西島松５ 西島松９ 上白滝６ 虎杖浜２ 栄浜１ 野田生２
	B.C. 8000		草創期	
旧石器時代	B.C. 12000 B.C. 20000	旧石器時代		白滝遺跡群

2　調査遺跡

チプニー1遺跡（A－03－277）

事 業 名：一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：北海道開発局札幌開発建設部
所 在 地：千歳市中央1018－5
調査面積：4,360㎡
発掘期間：平成13年5月7日～10月31日
調 査 員：佐川俊一、笠原　興、冨永勝也、山中文雄

遺跡の概要

遺跡は、千歳市の市街地から北東へ約6km、馬追丘陵の西側斜面を流れるチプニー川の左岸、標高約18～22mに位置している。明治29年発行の北海道仮製5万分の一図では、河川名がチプエとなっており、船（chip）に関係する地名であると考えられる。

調査区はほぼ平坦な台地部分と、チプニー川に向かう緩斜面、さらに河岸の河道跡から形成されている。チプニー川を挟んだ対岸にはチプニー2遺跡がある。基本土層は、Ⅰ層：表土、Ⅱ層：樽前a降下軽石、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：樽前c降下軽石、Ⅴ層：黒色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：恵庭a降下軽石起源のローム、Ⅷ層：恵庭a降下軽石である。河道跡はチプニー川の氾濫等によって堆積した砂やシルト質の層が見られる。遺物包含層は主にⅢ層（第Ⅰ黒色土）とⅤ層（第Ⅱ黒色土）である。

遺構と遺物

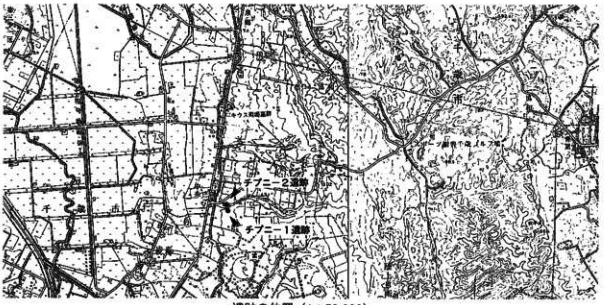
検出した遺構はⅢ層から、アイヌ文化期の所産と考えられる焼土2ヵ所、擦文時代の焼土26ヵ所、集石1ヵ所。また、Ⅴ層からは縄文時代の土壙3基、Tピット2基、焼土13ヵ所、炭化物集中1ヵ所を検出した。遺物は縄文時代からアイヌ文化期までのものがあわせて約16,000点出土した。

内訳は土器片が約14,000点、石器等が約2,000点である。土器は縄文時代早期から擦文時代におよぶ各時期のものがある。Ⅲ層中で最も多くを占めるものは擦文土器で約7,500点を数える。

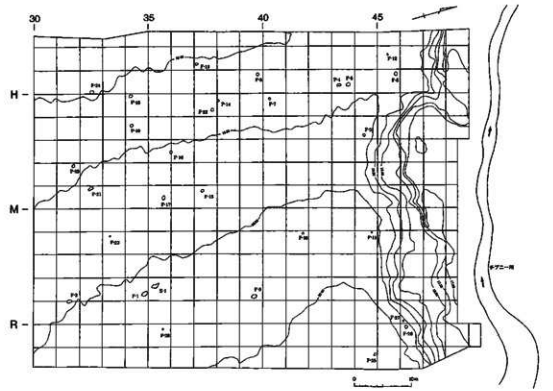
Ⅴ層中からは縄文時代後期中葉から後葉にかけての時期と、晩期後葉のものが多い。

また河道跡からも縄文期から擦文文化期までの遺物が出土しているが、木製品等は出土していない。

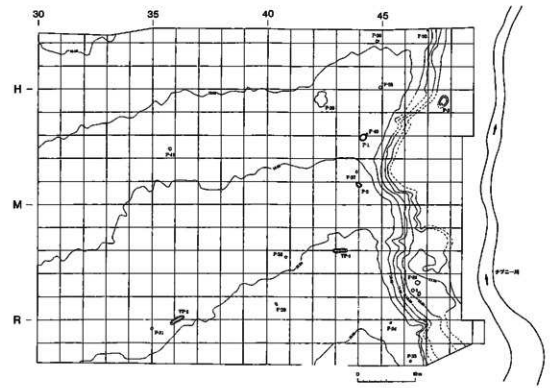
なお出土した鉄製品14点の保存処理を外注している。



遺跡の位置（1：50,000）



III層遺構位置図（等高線はIII層上面）



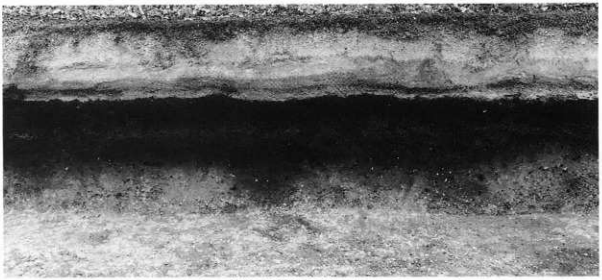
V層遺構位置図（等高線はV層上面）

遺構数一覧

時代／遺構種別	土　壙	Tピット	焼　土	炭化物集中	集　石	柱穴様ピット
アイヌ文化期	0	0	2	0	0	0
擦文時代	0	0	26	0	1	0
縄文時代	3	2	13	1	0	31

調査区全景（南から）

河道跡調査状況（南から）



基本土層断面（南東から）

擦文土器出土状況（南東から）

P－1　完掘（南から）

P－2　完掘（南東から）

P－3　完掘（南から）

チプニー２遺跡（Ａ－03－278）

事 業 名：一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：北海道開発局札幌開発建設部

所 在 地：千歳市中央1026－13

調査面積：450㎡

発掘期間：平成13年９月３日～10月31日

調 査 員：佐川俊一、山中文雄

遺跡の概要

遺跡はチプニー１遺跡の対岸に位置する。調査区は、西へ緩やかに傾斜する台地部分、チプニー川の方へ傾斜するやや急な斜面部分、その下の平坦部分からなる。

調査区内の基本土層はチプニー１遺跡と同じである。遺物はⅢ、Ⅴ、Ⅵ層から出土した。とくに斜面下の平坦部分のⅢ層からは、縄文時代晩期の遺物が多数出土した。

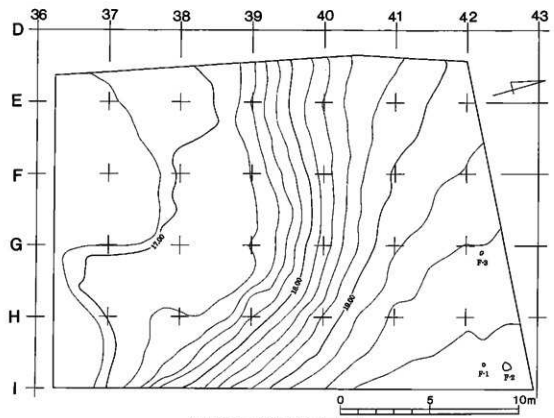
遺構と遺物

遺構は、Ⅴ層で焼土１ヵ所（Ｆ－１）、Ⅵ層で焼土２ヵ所（Ｆ－２・３）を検出した。

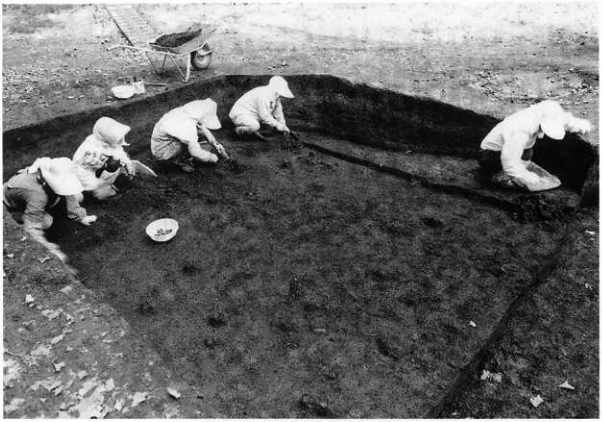
遺物は、土器片約5,800点、石器等約2,100点、合計約7,900点が出土した。このうち縄文時代晩期のものが全遺物の大部分を占める。

土器は、縄文時代早期後半、中期、後期前葉、晩期、擦文時代のものが出土している。縄文時代晩期の土器はⅢ層からの出土がほとんどで、千歳市ママチ遺跡のⅠ・Ⅱ黒層から出土した土器に相当する。Ⅴ・Ⅵ層からの出土は多くないが、その中では縄文時代早期の東釧路Ⅲ式土器が比較的多い。

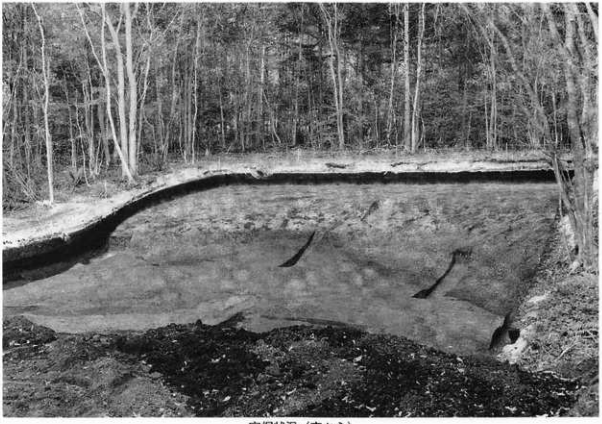
石器はⅢ層で石鏃、スクレイパーが多く出土している。石斧や礫石器は数点しか出土していない。他に矢柄研磨器が出土している。Ⅴ・Ⅵ層ではスクレイパー、すり石等が出土している。



遺構位置図（等高線はⅤ層上面）



III層調査状況（斜面下の平坦部分　東から）



完掘状況（南から）

虎杖浜（こじょうはま）2遺跡（J－10－1）

事 業 名：一般国道36号登別拡幅工事（虎杖浜工区）用地内埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：北海道開発局室蘭開発建設部
所 在 地：白老郡白老町字虎杖浜333－6ほか
調査面積：2,010㎡
発掘期間：平成13年5月9日～10月31日
調 査 員：佐藤和雄、土肥研晶、末光正卓

遺跡の概要

遺跡は、白老町西端部、登別市との境界に近い、アヨロ川とポンアヨロ川に挟まれる、太平洋に突き出た標高約50ｍの台地上、国道36号線の虎杖浜トンネルのほぼ真上に位置する。遺跡の存在は古くから知られており、昭和52年の白老町教育委員会による分布調査では、A・B2ヵ所の貝塚を有する縄文時代前期の大規模な集落跡の存在が確認されている。調査区内に位置するA地点貝塚は、昭和33年の虎杖浜トンネルの天井陥没事故に伴う修復工事の際にその土砂が利用されるなど、破壊が進んでいたが、分布調査の時点では、層厚20cm内外で約155㎡の広がりを有する貝塚であることが確認されていた。現況は、斜面に多数の自然遺物が散布している状況が確認されたが、平成12年に行ったトレンチ調査で、完全に破壊されていることを確認し、遺物回収地区となった。

遺構と遺物

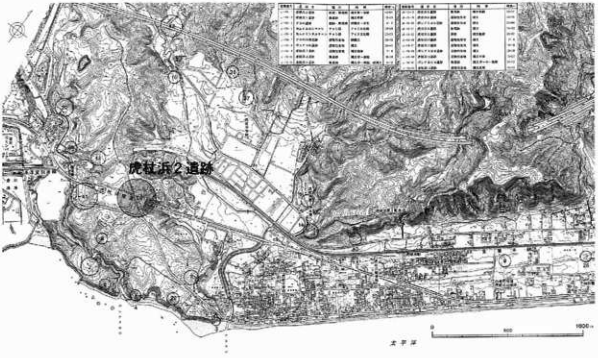
遺跡の調査は平成9年度に白老町が、平成11年度からは㈶北海道埋蔵文化財センターが調査を行い、今年度で4期目となる。今年度の調査区は町道伏古別1番線を挟むA・B・C地区の3ヵ所に分かれる。今年度検出された遺構には、竪穴住居跡10軒、土壙7基、焼土7ヵ所のほか、貝塚を含む盛土がある。竪穴住居跡はB地区周辺に集中して検出され、今年度までに28軒がほとんど切り合わない状況で検出された。これらの竪穴には、地床炉が無く、砂の堆積が見られる例が多い。A地区の北隅には盛土遺構が確認され、その中にはA貝塚の一部が破壊を免れ調査区外にも広がることが確認された。

出土遺物は、土器が2,488点、石器は29,508点で、土器は縄文時代前期の円筒土器下層ａ式併行のものが中心で、出土量が少ないことが特徴である。

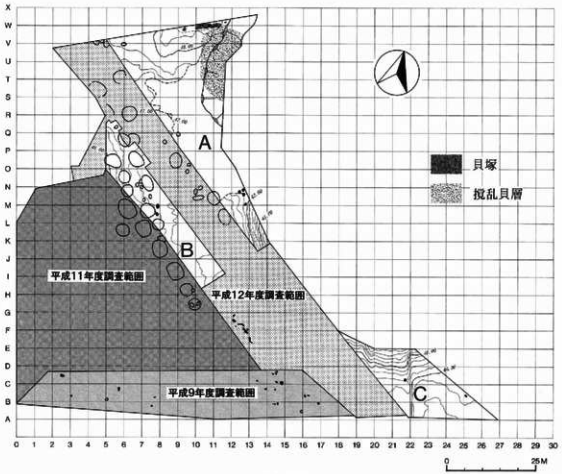
撹乱貝層の水洗選別作業では自然遺物がコンテナで約500箱回収され、一部を選別した結果、わずかな土器や石器のほかは、ヤマトシジミを主体とする貝類、ウニ類が多く、この他に魚類、海獣骨、陸獣骨のほか、人骨や骨角器も見つかっている。

竪穴住居跡完掘状況

貝塚遺物出土状況


虎塚古墳群
虎塚古墳
虎塚古墳2遺跡
虎塚古墳3遺跡
虎塚古墳4遺跡
虎塚古墳5遺跡
虎塚古墳6遺跡
虎塚古墳7遺跡
虎塚古墳8遺跡
虎塚古墳9遺跡
虎塚古墳10遺跡
虎塚古墳11遺跡
虎塚古墳12遺跡
虎塚古墳13遺跡
虎塚古墳14遺跡
虎塚古墳15遺跡
虎塚古墳16遺跡
虎塚古墳17遺跡
虎塚古墳18遺跡
虎塚古墳19遺跡
虎塚古墳20遺跡
虎塚古墳21遺跡
虎塚古墳22遺跡
虎塚古墳23遺跡
虎塚古墳24遺跡
虎塚古墳25遺跡
虎塚古墳26遺跡
虎塚古墳27遺跡
虎塚古墳28遺跡
虎塚古墳29遺跡
虎塚古墳30遺跡
虎塚古墳31遺跡
虎塚古墳32遺跡
虎塚古墳33遺跡
虎塚古墳34遺跡
虎塚古墳35遺跡
虎塚古墳36遺跡
虎塚古墳37遺跡
虎塚古墳38遺跡
虎塚古墳39遺跡
虎塚古墳40遺跡
虎塚古墳41遺跡
虎塚古墳42遺跡
虎塚古墳43遺跡
虎塚古墳44遺跡
虎塚古墳45遺跡
虎塚古墳46遺跡
虎塚古墳47遺跡
虎塚古墳48遺跡
虎塚古墳49遺跡
虎塚古墳50遺跡
虎塚古墳51遺跡
虎塚古墳52遺跡
虎塚古墳53遺跡
虎塚古墳54遺跡
虎塚古墳55遺跡
虎塚古墳56遺跡
虎塚古墳57遺跡
虎塚古墳58遺跡
虎塚古墳59遺跡
虎塚古墳60遺跡
虎塚古墳61遺跡
虎塚古墳62遺跡
虎塚古墳63遺跡
虎塚古墳64遺跡
虎塚古墳65遺跡
虎塚古墳66遺跡
虎塚古墳67遺跡
虎塚古墳68遺跡
虎塚古墳69遺跡
虎塚古墳70遺跡
虎塚古墳71遺跡
虎塚古墳72遺跡
虎塚古墳73遺跡
虎塚古墳74遺跡
虎塚古墳75遺跡
虎塚古墳76遺跡
虎塚古墳77遺跡
虎塚古墳78遺跡
虎塚古墳79遺跡
虎塚古墳80遺跡
虎塚古墳81遺跡
虎塚古墳82遺跡
虎塚古墳83遺跡
虎塚古墳84遺跡
虎塚古墳85遺跡
虎塚古墳86遺跡
虎塚古墳87遺跡
虎塚古墳88遺跡
虎塚古墳89遺跡
虎塚古墳90遺跡
虎塚古墳91遺跡
虎塚古墳92遺跡
虎塚古墳93遺跡
虎塚古墳94遺跡
虎塚古墳95遺跡
虎塚古墳96遺跡
虎塚古墳97遺跡
虎塚古墳98遺跡
虎塚古墳99遺跡
虎塚古墳100遺跡
虎塚古墳101遺跡
虎塚古墳102遺跡
虎塚古墳103遺跡
虎塚古墳104遺跡
虎塚古墳105遺跡
虎塚古墳106遺跡
虎塚古墳107遺跡
虎塚古墳108遺跡
虎塚古墳109遺跡
虎塚古墳110遺跡
虎塚古墳111遺跡
虎塚古墳112遺跡
虎塚古墳113遺跡
虎塚古墳114遺跡
虎塚古墳115遺跡
虎塚古墳116遺跡
虎塚古墳117遺跡
虎塚古墳118遺跡
虎塚古墳119遺跡
虎塚古墳120遺跡
虎塚古墳121遺跡
虎塚古墳122遺跡
虎塚古墳123遺跡
虎塚古墳124遺跡
虎塚古墳125遺跡
虎塚古墳126遺跡
虎塚古墳127遺跡
虎塚古墳128遺跡
虎塚古墳129遺跡
虎塚古墳130遺跡
虎塚古墳131遺跡
虎塚古墳132遺跡
虎塚古墳133遺跡
虎塚古墳134遺跡
虎塚古墳135遺跡
虎塚古墳136遺跡
虎塚古墳137遺跡
虎塚古墳138遺跡
虎塚古墳139遺跡
虎塚古墳140遺跡
虎塚古墳141遺跡
虎塚古墳142遺跡
虎塚古墳143遺跡
虎塚古墳144遺跡
虎塚古墳145遺跡
虎塚古墳146遺跡
虎塚古墳147遺跡
虎塚古墳148遺跡
虎塚古墳149遺跡
虎塚古墳150遺跡
虎塚古墳151遺跡
虎塚古墳152遺跡
虎塚古墳153遺跡
虎塚古墳154遺跡
虎塚古墳155遺跡
虎塚古墳156遺跡
虎塚古墳157遺跡
虎塚古墳158遺跡
虎塚古墳159遺跡
虎塚古墳160遺跡
虎塚古墳161遺跡
虎塚古墳162遺跡
虎塚古墳163遺跡
虎塚古墳164遺跡
虎塚古墳165遺跡
虎塚古墳166遺跡
虎塚古墳167遺跡
虎塚古墳168遺跡
虎塚古墳169遺跡
虎塚古墳170遺跡
虎塚古墳171遺跡
虎塚古墳172遺跡
虎塚古墳173遺跡
虎塚古墳174遺跡
虎塚古墳175遺跡
虎塚古墳176遺跡
虎塚古墳177遺跡
虎塚古墳178遺跡
虎塚古墳179遺跡
虎塚古墳180遺跡
虎塚古墳181遺跡
虎塚古墳182遺跡
虎塚古墳183遺跡
虎塚古墳184遺跡
虎塚古墳185遺跡
虎塚古墳186遺跡
虎塚古墳187遺跡
虎塚古墳188遺跡
虎塚古墳189遺跡
虎塚古墳190遺跡
虎塚古墳191遺跡
虎塚古墳192遺跡
虎塚古墳193遺跡
虎塚古墳194遺跡
虎塚古墳195遺跡
虎塚古墳196遺跡
虎塚古墳197遺跡
虎塚古墳198遺跡
虎塚古墳199遺跡
虎塚古墳200遺跡
虎塚古墳201遺跡
虎塚古墳202遺跡
虎塚古墳203遺跡
虎塚古墳204遺跡
虎塚古墳205遺跡
虎塚古墳206遺跡
虎塚古墳207遺跡
虎塚古墳208遺跡
虎塚古墳209遺跡
虎塚古墳210遺跡
虎塚古墳211遺跡
虎塚古墳212遺跡
虎塚古墳213遺跡
虎塚古墳214遺跡
虎塚古墳215遺跡
虎塚古墳216遺跡
虎塚古墳217遺跡
虎塚古墳218遺跡
虎塚古墳219遺跡
虎塚古墳220遺跡
虎塚古墳221遺跡
虎塚古墳222遺跡
虎塚古墳223遺跡
虎塚古墳224遺跡
虎塚古墳225遺跡
虎塚古墳226遺跡
虎塚古墳227遺跡
虎塚古墳228遺跡
虎塚古墳229遺跡
虎塚古墳230遺跡
虎塚古墳231遺跡
虎塚古墳232遺跡
虎塚古墳233遺跡
虎塚古墳234遺跡
虎塚古墳235遺跡
虎塚古墳236遺跡
虎塚古墳237遺跡
虎塚古墳238遺跡
虎塚古墳239遺跡
虎塚古墳240遺跡
虎塚古墳241遺跡
虎塚古墳242遺跡
虎塚古墳243遺跡
虎塚古墳244遺跡
虎塚古墳245遺跡
虎塚古墳246遺跡
虎塚古墳247遺跡
虎塚古墳248遺跡
虎塚古墳249遺跡
虎塚古墳250遺跡
虎塚古墳251遺跡
虎塚古墳252遺跡
虎塚古墳253遺跡
虎塚古墳254遺跡
虎塚古墳255遺跡
虎塚古墳256遺跡
虎塚古墳257遺跡
虎塚古墳258遺跡
虎塚古墳259遺跡
虎塚古墳260遺跡
虎塚古墳261遺跡
虎塚古墳262遺跡
虎塚古墳263遺跡
虎塚古墳264遺跡
虎塚古墳265遺跡
虎塚古墳266遺跡
虎塚古墳267遺跡
虎塚古墳268遺跡
虎塚古墳269遺跡
虎塚古墳270遺跡
虎塚古墳271遺跡
虎塚古墳272遺跡
虎塚古墳273遺跡
虎塚古墳274遺跡
虎塚古墳275遺跡
虎塚古墳276遺跡
虎塚古墳277遺跡
虎塚古墳278遺跡
虎塚古墳279遺跡
虎塚古墳280遺跡
虎塚古墳281遺跡
虎塚古墳282遺跡
虎塚古墳283遺跡
虎塚古墳284遺跡
虎塚古墳285遺跡
虎塚古墳286遺跡
虎塚古墳287遺跡
虎塚古墳288遺跡
虎塚古墳289遺跡
虎塚古墳290遺跡
虎塚古墳291遺跡
虎塚古墳292遺跡
虎塚古墳293遺跡
虎塚古墳294遺跡
虎塚古墳295遺跡
虎塚古墳296遺跡
虎塚古墳297遺跡
虎塚古墳298遺跡
虎塚古墳299遺跡
虎塚古墳300遺跡
虎塚古墳301遺跡
虎塚古墳302遺跡
虎塚古墳303遺跡
虎塚古墳304遺跡
虎塚古墳305遺跡
虎塚古墳306遺跡
虎塚古墳307遺跡
虎塚古墳308遺跡
虎塚古墳309遺跡
虎塚古墳310遺跡
虎塚古墳311遺跡
虎塚古墳312遺跡
虎塚古墳313遺跡
虎塚古墳314遺跡
虎塚古墳315遺跡
虎塚古墳316遺跡
虎塚古墳317遺跡
虎塚古墳318遺跡
虎塚古墳319遺跡
虎塚古墳320遺跡
虎塚古墳321遺跡
虎塚古墳322遺跡
虎塚古墳323遺跡
虎塚古墳324遺跡
虎塚古墳325遺跡
虎塚古墳326遺跡
虎塚古墳327遺跡
虎塚古墳328遺跡
虎塚古墳329遺跡
虎塚古墳330遺跡
虎塚古墳331遺跡
虎塚古墳332遺跡
虎塚古墳333遺跡
虎塚古墳334遺跡
虎塚古墳335遺跡
虎塚古墳336遺跡
虎塚古墳337遺跡
虎塚古墳338遺跡
虎塚古墳339遺跡
虎塚古墳340遺跡
虎塚古墳341遺跡
虎塚古墳342遺跡
虎塚古墳343遺跡
虎塚古墳344遺跡
虎塚古墳345遺跡
虎塚古墳346遺跡
虎塚古墳347遺跡
虎塚古墳348遺跡
虎塚古墳349遺跡
虎塚古墳350遺跡
虎塚古墳351遺跡
虎塚古墳352遺跡
虎塚古墳353遺跡
虎塚古墳354遺跡
虎塚古墳355遺跡
虎塚古墳356遺跡
虎塚古墳357遺跡
虎塚古墳358遺跡
虎塚古墳359遺跡
虎塚古墳360遺跡
虎塚古墳361遺跡
虎塚古墳362遺跡
虎塚古墳363遺跡
虎塚古墳364遺跡
虎塚古墳365遺跡
虎塚古墳366遺跡
虎塚古墳367遺跡
虎塚古墳368遺跡
虎塚古墳369遺跡
虎塚古墳370遺跡
虎塚古墳371遺跡
虎塚古墳372遺跡
虎塚古墳373遺跡
虎塚古墳374遺跡
虎塚古墳375遺跡
虎塚古墳376遺跡
虎塚古墳377遺跡
虎塚古墳378遺跡
虎塚古墳379遺跡
虎塚古墳380遺跡
虎塚古墳381遺跡
虎塚古墳382遺跡
虎塚古墳383遺跡
虎塚古墳384遺跡
虎塚古墳385遺跡
虎塚古墳386遺跡
虎塚古墳387遺跡
虎塚古墳388遺跡
虎塚古墳389遺跡
虎塚古墳390遺跡
虎塚古墳391遺跡
虎塚古墳392遺跡
虎塚古墳393遺跡
虎塚古墳394遺跡
虎塚古墳395遺跡
虎塚古墳396遺跡
虎塚古墳397遺跡
虎塚古墳398遺跡
虎塚古墳399遺跡
虎塚古墳400遺跡
虎塚古墳401遺跡
虎塚古墳402遺跡
虎塚古墳403遺跡
虎塚古墳404遺跡
虎塚古墳405遺跡
虎塚古墳406遺跡
虎塚古墳407遺跡
虎塚古墳408遺跡
虎塚古墳409遺跡
虎塚古墳410遺跡
虎塚古墳411遺跡
虎塚古墳412遺跡
虎塚古墳413遺跡
虎塚古墳414遺跡
虎塚古墳415遺跡
虎塚古墳416遺跡
虎塚古墳417遺跡
虎塚古墳418遺跡
虎塚古墳419遺跡
虎塚古墳420遺跡
虎塚古墳421遺跡
虎塚古墳422遺跡
虎塚古墳423遺跡
虎塚古墳424遺跡
虎塚古墳425遺跡
虎塚古墳426遺跡
虎塚古墳427遺跡
虎塚古墳428遺跡
虎塚古墳429遺跡
虎塚古墳430遺跡
虎塚古墳431遺跡
虎塚古墳432遺跡
虎塚古墳433遺跡
虎塚古墳434遺跡
虎塚古墳435遺跡
虎塚古墳436遺跡
虎塚古墳437遺跡
虎塚古墳438遺跡
虎塚古墳439遺跡
虎塚古墳440遺跡
虎塚古墳441遺跡
虎塚古墳442遺跡
虎塚古墳443遺跡
虎塚古墳444遺跡
虎塚古墳445遺跡
虎塚古墳446遺跡
虎塚古墳447遺跡
虎塚古墳448遺跡
虎塚古墳449遺跡
虎塚古墳450遺跡
虎塚古墳451遺跡
虎塚古墳452遺跡
虎塚古墳453遺跡
虎塚古墳454遺跡
虎塚古墳455遺跡
虎塚古墳456遺跡
虎塚古墳457遺跡
虎塚古墳458遺跡
虎塚古墳459遺跡
虎塚古墳460遺跡
虎塚古墳461遺跡
虎塚古墳462遺跡
虎塚古墳463遺跡
虎塚古墳464遺跡
虎塚古墳465遺跡
虎塚古墳466遺跡
虎塚古墳467遺跡
虎塚古墳468遺跡
虎塚古墳469遺跡
虎塚古墳470遺跡
虎塚古墳471遺跡
虎塚古墳472遺跡
虎塚古墳473遺跡
虎塚古墳474遺跡
虎塚古墳475遺跡
虎塚古墳476遺跡
虎塚古墳477遺跡
虎塚古墳478遺跡
虎塚古墳479遺跡
虎塚古墳480遺跡
虎塚古墳481遺跡
虎塚古墳482遺跡
虎塚古墳483遺跡
虎塚古墳484遺跡
虎塚古墳485遺跡
虎塚古墳486遺跡
虎塚古墳487遺跡
虎塚古墳488遺跡
虎塚古墳489遺跡
虎塚古墳490遺跡
虎塚古墳491遺跡
虎塚古墳492遺跡
虎塚古墳493遺跡
虎塚古墳494遺跡
虎塚古墳495遺跡
虎塚古墳496遺跡
虎塚古墳497遺跡
虎塚古墳498遺跡
虎塚古墳499遺跡
虎塚古墳500遺跡
虎塚古墳501遺跡
虎塚古墳502遺跡
虎塚古墳503遺跡
虎塚古墳504遺跡
虎塚古墳505遺跡
虎塚古墳506遺跡
虎塚古墳507遺跡
虎塚古墳508遺跡
虎塚古墳509遺跡
虎塚古墳510遺跡
虎塚古墳511遺跡
虎塚古墳512遺跡
虎塚古墳513遺跡
虎塚古墳514遺跡
虎塚古墳515遺跡
虎塚古墳516遺跡
虎塚古墳517遺跡
虎塚古墳518遺跡
虎塚古墳519遺跡
虎塚古墳520遺跡
虎塚古墳521遺跡
虎塚古墳522遺跡
虎塚古墳523遺跡
虎塚古墳524遺跡
虎塚古墳525遺跡
虎塚古墳526遺跡
虎塚古墳527遺跡
虎塚古墳528遺跡
虎塚古墳529遺跡
虎塚古墳530遺跡
虎塚古墳531遺跡
虎塚古墳532遺跡
虎塚古墳533遺跡
虎塚古墳534遺跡
虎塚古墳535遺跡
虎塚古墳536遺跡
虎塚古墳537遺跡
虎塚古墳538遺跡
虎塚古墳539遺跡
虎塚古墳540遺跡
虎塚古墳541遺跡
虎塚古墳542遺跡
虎塚古墳543遺跡
虎塚古墳544遺跡
虎塚古墳545遺跡
虎塚古墳546遺跡
虎塚古墳547遺跡
虎塚古墳548遺跡
虎塚古墳549遺跡
虎塚古墳550遺跡
虎塚古墳551遺跡
虎塚古墳552遺跡
虎塚古墳553遺跡
虎塚古墳554遺跡
虎塚古墳555遺跡
虎塚古墳556遺跡
虎塚古墳557遺跡
虎塚古墳558遺跡
虎塚古墳559遺跡
虎塚古墳560遺跡
虎塚古墳561遺跡
虎塚古墳562遺跡
虎塚古墳563遺跡
虎塚古墳564遺跡
虎塚古墳565遺跡
虎塚古墳566遺跡
虎塚古墳567遺跡
虎塚古墳568遺跡
虎塚古墳569遺跡
虎塚古墳570遺跡
虎塚古墳571遺跡
虎塚古墳572遺跡
虎塚古墳573遺跡
虎塚古墳574遺跡
虎塚古墳575遺跡
虎塚古墳576遺跡
虎塚古墳577遺跡
虎塚古墳578遺跡
虎塚古墳579遺跡
虎塚古墳580遺跡
虎塚古墳581遺跡
虎塚古墳582遺跡
虎塚古墳583遺跡
虎塚古墳584遺跡
虎塚古墳585遺跡
虎塚古墳586遺跡
虎塚古墳587遺跡
虎塚古墳588遺跡
虎塚古墳589遺跡
虎塚古墳590遺跡
虎塚古墳591遺跡
虎塚古墳592遺跡
虎塚古墳593遺跡
虎塚古墳594遺跡
虎塚古墳595遺跡
虎塚古墳596遺跡
虎塚古墳597遺跡
虎塚古墳598遺跡
虎塚古墳599遺跡
虎塚古墳600遺跡
虎塚古墳601遺跡
虎塚古墳602遺跡
虎塚古墳603遺跡
虎塚古墳604遺跡
虎塚古墳605遺跡
虎塚古墳606遺跡
虎塚古墳607遺跡
虎塚古墳608遺跡
虎塚古墳609遺跡
虎塚古墳610遺跡
虎塚古墳611遺跡
虎塚古墳612遺跡
虎塚古墳613遺跡
虎塚古墳614遺跡
虎塚古墳615遺跡
虎塚古墳616遺跡
虎塚古墳617遺跡
虎塚古墳618遺跡
虎塚古墳619遺跡
虎塚古墳620遺跡
虎塚古墳621遺跡
虎塚古墳622遺跡
虎塚古墳623遺跡
虎塚古墳624遺跡
虎塚古墳625遺跡
虎塚古墳626遺跡
虎塚古墳627遺跡
虎塚古墳628遺跡
虎塚古墳629遺跡
虎塚古墳630遺跡
虎塚古墳631遺跡
虎塚古墳632遺跡
虎塚古墳633遺跡
虎塚古墳634遺跡
虎塚古墳635遺跡
虎塚古墳636遺跡
虎塚古墳637遺跡
虎塚古墳638遺跡
虎塚古墳639遺跡
虎塚古墳640遺跡
虎塚古墳641遺跡
虎塚古墳642遺跡
虎塚古墳643遺跡
虎塚古墳644遺跡
虎塚古墳645遺跡
虎塚古墳646遺跡
虎塚古墳647遺跡
虎塚古墳648遺跡
虎塚古墳649遺跡
虎塚古墳650遺跡
虎塚古墳651遺跡
虎塚古墳652遺跡
虎塚古墳653遺跡
虎塚古墳654遺跡
虎塚古墳655遺跡
虎塚古墳656遺跡
虎塚古墳657遺跡
虎塚古墳658遺跡
虎塚古墳659遺跡
虎塚古墳660遺跡
虎塚古墳661遺跡
虎塚古墳662遺跡
虎塚古墳663遺跡
虎塚古墳664遺跡
虎塚古墳665遺跡
虎塚古墳666遺跡
虎塚古墳667遺跡
虎塚古墳668遺跡
虎塚古墳669遺跡
虎塚古墳670遺跡
虎塚古墳671遺跡
虎塚古墳672遺跡
虎塚古墳673遺跡
虎塚古墳674遺跡
虎塚古墳675遺跡
虎塚古墳676遺跡
虎塚古墳677遺跡
虎塚古墳678遺跡
虎塚古墳679遺跡
虎塚古墳680遺跡
虎塚古墳681遺跡
虎塚古墳682遺跡
虎塚古墳683遺跡
虎塚古墳684遺跡
虎塚古墳685遺跡
虎塚古墳686遺跡
虎塚古墳687遺跡
虎塚古墳688遺跡
虎塚古墳689遺跡
虎塚古墳690遺跡
虎塚古墳691遺跡
虎塚古墳692遺跡
虎塚古墳693遺跡
虎塚古墳694遺跡
虎塚古墳695遺跡
虎塚古墳696遺跡
虎塚古墳697遺跡
虎塚古墳698遺跡
虎塚古墳699遺跡
虎塚古墳700遺跡
虎塚古墳701遺跡
虎塚古墳702遺跡
虎塚古墳703遺跡
虎塚古墳704遺跡
虎塚古墳705遺跡
虎塚古墳706遺跡
虎塚古墳707遺跡
虎塚古墳708遺跡
虎塚古墳709遺跡
虎塚古墳710遺跡
虎塚古墳711遺跡
虎塚古墳712遺跡
虎塚古墳713遺跡
虎塚古墳714遺跡
虎塚古墳715遺跡
虎塚古墳716遺跡
虎塚古墳717遺跡
虎塚古墳718遺跡
虎塚古墳719遺跡
虎塚古墳720遺跡
虎塚古墳721遺跡
虎塚古墳722遺跡
虎塚古墳723遺跡
虎塚古墳724遺跡
虎塚古墳725遺跡
虎塚古墳726遺跡
虎塚古墳727遺跡
虎塚古墳728遺跡
虎塚古墳729遺跡
虎塚古墳730遺跡
虎塚古墳731遺跡
虎塚古墳732遺跡
虎塚古墳733遺跡
虎塚古墳734遺跡
虎塚古墳735遺跡
虎塚古墳736遺跡
虎塚古墳737遺跡
虎塚古墳738遺跡
虎塚古墳739遺跡
虎塚古墳740遺跡
虎塚古墳741遺跡
虎塚古墳742遺跡
虎塚古墳743遺跡
虎塚古墳744遺跡
虎塚古墳745遺跡
虎塚古墳746遺跡
虎塚古墳747遺跡
虎塚古墳748遺跡
虎塚古墳749遺跡
虎塚古墳750遺跡
虎塚古墳751遺跡
虎塚古墳752遺跡
虎塚古墳753遺跡
虎塚古墳754遺跡
虎塚古墳755遺跡
虎塚古墳756遺跡
虎塚古墳757遺跡
虎塚古墳758遺跡
虎塚古墳759遺跡
虎塚古墳760遺跡
虎塚古墳761遺跡
虎塚古墳762遺跡
虎塚古墳763遺跡
虎塚古墳764遺跡
虎塚古墳765遺跡
虎塚古墳766遺跡
虎塚古墳767遺跡
虎塚古墳768遺跡
虎塚古墳769遺跡
虎塚古墳770遺跡
虎塚古墳771遺跡
虎塚古墳772遺跡
虎塚古墳773遺跡
虎塚古墳774遺跡
虎塚古墳775遺跡
虎塚古墳776遺跡
虎塚古墳777遺跡
虎塚古墳778遺跡
虎塚古墳779遺跡
虎塚古墳780遺跡
虎塚古墳781遺跡
虎塚古墳782遺跡
虎塚古墳783遺跡
虎塚古墳784遺跡
虎塚古墳785遺跡
虎塚古墳786遺跡
虎塚古墳787遺跡
虎塚古墳788遺跡
虎塚古墳789遺跡
虎塚古墳790遺跡
虎塚古墳791遺跡
虎塚古墳792遺跡
虎塚古墳793遺跡
虎塚古墳794遺跡
虎塚古墳795遺跡
虎塚古墳796遺跡
虎塚古墳797遺跡
虎塚古墳798遺跡
虎塚古墳799遺跡
虎塚古墳800遺跡
虎塚古墳801遺跡
虎塚古墳802遺跡
虎塚古墳803遺跡
虎塚古墳804遺跡
虎塚古墳805遺跡
虎塚古墳806遺跡
虎塚古墳807遺跡
虎塚古墳808遺跡
虎塚古墳809遺跡
虎塚古墳810遺跡
虎塚古墳811遺跡
虎塚古墳812遺跡
虎塚古墳813遺跡
虎塚古墳814遺跡
虎塚古墳815遺跡
虎塚古墳816遺跡
虎塚古墳817遺跡
虎塚古墳818遺跡
虎塚古墳819遺跡
虎塚古墳820遺跡
虎塚古墳821遺跡
虎塚古墳822遺跡
虎塚古墳823遺跡
虎塚古墳824遺跡
虎塚古墳825遺跡
虎塚古墳826遺跡
虎塚古墳827遺跡
虎塚古墳828遺跡
虎塚古墳829遺跡
虎塚古墳830遺跡
虎塚古墳831遺跡
虎塚古墳832遺跡
虎塚古墳833遺跡
虎塚古墳834遺跡
虎塚古墳835遺跡
虎塚古墳836遺跡
虎塚古墳837遺跡
虎塚古墳838遺跡
虎塚古墳839遺跡
虎塚古墳840遺跡
虎塚古墳841遺跡
虎塚古墳842遺跡
虎塚古墳843遺跡
虎塚古墳844遺跡
虎塚古墳845遺跡
虎塚古墳846遺跡
虎塚古墳847遺跡
虎塚古墳848遺跡
虎塚古墳849遺跡
虎塚古墳850遺跡
虎塚古墳851遺跡
虎塚古墳852遺跡
虎塚古墳853遺跡
虎塚古墳854遺跡
虎塚古墳855遺跡
虎塚古墳856遺跡
虎塚古墳857遺跡
虎塚古墳858遺跡
虎塚古墳859遺跡
虎塚古墳860遺跡
虎塚古墳861遺跡
虎塚古墳862遺跡
虎塚古墳863遺跡
虎塚古墳864遺跡
虎塚古墳865遺跡
虎塚古墳866遺跡
虎塚古墳867遺跡
虎塚古墳868遺跡
虎塚古墳869遺跡
虎塚古墳870遺跡
虎塚古墳871遺跡
虎塚古墳872遺跡
虎塚古墳873遺跡
虎塚古墳874遺跡
虎塚古墳875遺跡
虎塚古墳876遺跡
虎塚古墳877遺跡
虎塚古墳878遺跡
虎塚古墳879遺跡
虎塚古墳880遺跡
虎塚古墳881遺跡
虎塚古墳882遺跡
虎塚古墳883遺跡
虎塚古墳884遺跡
虎塚古墳885遺跡
虎塚古墳886遺跡
虎塚古墳887遺跡
虎塚古墳888遺跡
虎塚古墳889遺跡
虎塚古墳890遺跡
虎塚古墳891遺跡
虎塚古墳892遺跡
虎塚古墳893遺跡
虎塚古墳894遺跡
虎塚古墳895遺跡
虎塚古墳896遺跡
虎塚古墳897遺跡
虎塚古墳898遺跡
虎塚古墳899遺跡
虎塚古墳900遺跡
虎塚古墳901遺跡
虎塚古墳902遺跡
虎塚古墳903遺跡
虎塚古墳904遺跡
虎塚古墳905遺跡
虎塚古墳906遺跡
虎塚古墳907遺跡
虎塚古墳908遺跡
虎塚古墳909遺跡
虎塚古墳910遺跡
虎塚古墳911遺跡
虎塚古墳912遺跡
虎塚古墳913遺跡
虎塚古墳914遺跡
虎塚古墳915遺跡
虎塚古墳916遺跡
虎塚古墳917遺跡
虎塚古墳918遺跡
虎塚古墳919遺跡
虎塚古墳920遺跡
虎塚古墳921遺跡
虎塚古墳922遺跡
虎塚古墳923遺跡
虎塚古墳924遺跡
虎塚古墳925遺跡
虎塚古墳926遺跡
虎塚古墳927遺跡
虎塚古墳928遺跡
虎塚古墳929遺跡
虎塚古墳930遺跡
虎塚古墳931遺跡
虎塚古墳932遺跡
虎塚古墳933遺跡
虎塚古墳934遺跡
虎塚古墳935遺跡
虎塚古墳936遺跡
虎塚古墳937遺跡
虎塚古墳938遺跡
虎塚古墳939遺跡
虎塚古墳940遺跡
虎塚古墳941遺跡
虎塚古墳942遺跡
虎塚古墳943遺跡
虎塚古墳944遺跡
虎塚古墳945遺跡
虎塚古墳946遺跡
虎塚古墳947遺跡
虎塚古墳948遺跡
虎塚古墳949遺跡
虎塚古墳950遺跡
虎塚古墳951遺跡
虎塚古墳952遺跡
虎塚古墳953遺跡
虎塚古墳954遺跡
虎塚古墳955遺跡
虎塚古墳956遺跡
虎塚古墳957遺跡
虎塚古墳958遺跡
虎塚古墳959遺跡
虎塚古墳960遺跡
虎塚古墳961遺跡
虎塚古墳962遺跡
虎塚古墳963遺跡
虎塚古墳964遺跡
虎塚古墳965遺跡
虎塚古墳966遺跡
虎塚古墳967遺跡
虎塚古墳968遺跡
虎塚古墳969遺跡
虎塚古墳970遺跡
虎塚古墳971遺跡
虎塚古墳972遺跡
虎塚古墳973遺跡
虎塚古墳974遺跡
虎塚古墳975遺跡
虎塚古墳976遺跡
虎塚古墳977遺跡
虎塚古墳978遺跡
虎塚古墳979遺跡
虎塚古墳980遺跡
虎塚古墳981遺跡
虎塚古墳982遺跡
虎塚古墳983遺跡
虎塚古墳984遺跡
虎塚古墳985遺跡
虎塚古墳986遺跡
虎塚古墳987遺跡
虎塚古墳988遺跡
虎塚古墳989遺跡
虎塚古墳990遺跡
虎塚古墳991遺跡
虎塚古墳992遺跡
虎塚古墳993遺跡
虎塚古墳994遺跡
虎塚古墳995遺跡
虎塚古墳996遺跡
虎塚古墳997遺跡
虎塚古墳998遺跡
虎塚古墳999遺跡
虎塚古墳1000遺跡

遺跡位置図


A
B
C
貝塚
撹乱貝層
平成11年度調査範囲
平成12年度調査範囲
平成9年度調査範囲
0
25M

遺構位置図

宮戸（みやと）4遺跡（J—14—40）

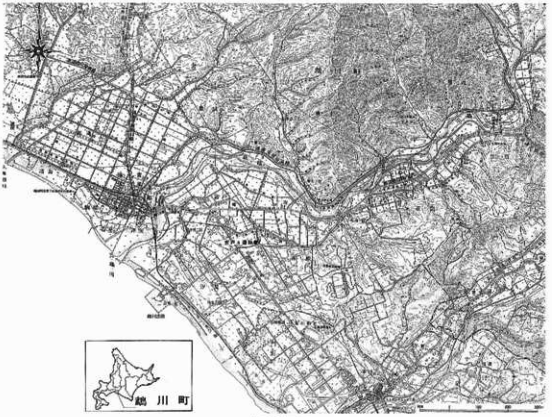
事 業 名：日高自動車道厚真門別道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：北海道開発局室蘭開発建設部
所 在 地：勇払郡鵡川町宮戸182の1ほか
調査面積：5,310㎡
発掘期間：平成13年5月7日～10月31日
調 査 員：西田　茂、鎌田　望、芝田直人、柳瀬由佳

遺跡の概要

遺跡は、JR鵡川駅の東南東約5kmに位置している。鵡川市街地からは一級河川鵡川を隔てたところであり、その支流イモッペ川の上流域にあたる。遺跡の立地は、標高50mほどの台地を開析して、略南から北に流れているイモッペ川が、標高20mほどの平坦部にさしかかる辺りである。

今年度は遺跡調査の2か年目である。高速道路の建設計画に基づき「町道米原2線」に接した区域とイモッペ川の改修区域とを発掘した。町道に接する区域は、標高19mから27mの斜面（樹林）部分であり、河川改修区域は標高20mから22mの平坦（水田）部分である。平坦部分では、水田造成時に遺物包含層が削平され消失したところがあり、さらに地域住民の使用している簡易水道2本の埋設時に包含層が撹乱を受けている。これら最近の人為的撹乱範囲を除くと、斜面部分、平坦部分ともに17世紀中葉の降下火山灰（有珠b降下火山灰と樽前b降下火山灰）に40～60cmほど覆われており、縄文時代の遺物包含層の残存状況は比較的良好であった。

斜面部分での堆積土層の概略は、17世紀中葉の降下火山灰（白色）の下約60～80cmほどは黒褐色土・黒色土であり、さらにその下は褐色土・黄褐色土（礫を多く含む）である。縄文時代早期の土器、



遺跡位置図

この図は国土地理院発行の地形図、1：50,000「富川」（NK—54—9—13、昭和63年3月30日発行）と、鵡川町役場の1：50,000「鵡川町全図」（承認番号　平10、道複　第874号）を合成したものである。

石器等は褐色土・黄褐色土の10cmの深さまでに包含されている。

発掘の進展に伴って、遺跡範囲の拡大が推測されたので北海道教育委員会の指導のもと試掘調査を行った。これにより平坦（水田）部分、斜面（樹林）部分ともに遺物包蔵地が広がっていることが判明した。一部については発掘をおこなったが、大部分は次年度以降の調査範囲となる。

遺構と遺物

検出した遺構は、竪穴住居跡１、Ｔピット13、焼土26、剥片集中１である。これらの遺構はすべて斜面（樹林）部分にある。住居跡は斜面部分の沢地形の中、標高20mにある。長径５mほどの略円形で、掘り込みが浅く、明瞭な炉跡や柱穴をもたない。床面から検出された土器片から判断すると、縄文時代早期後半（コッタロ式土器）の遺構と考えられる。

Ｔピットは、平面形により、楕円形のものと長楕円形のものとに分けられる。楕円形のものは比較的深く（1.3～1.6m）掘り込まれており、長楕円形のものは比較的浅い（1.0～1.3m）ものである。これらのＴピット相互の連結を推定すると、楕円形のものは斜面地形を沢に沿うように分布しており、一方長楕円形のものは沢地形を横切るように列をなしている。Ｔピット同士の切り合いは確認されなかった。

焼土は、検出された土層面ならびに出土遺物から判断すると、その大半は縄文時代早期後半の時期に形成されたものである。同じような判断基準に照らして縄文時代前期前半、縄文時代中期後半とみなされるものもある。

剥片集中は、長径５m弱の範囲に黒曜石の残核片、剥片、砕片が1,600点ほど検出されたもの。このなかには製作途中の破損品とみなされる石鏃片９点もある。ここは素材の黒曜石を打ち割り、剥片を加工し石鏃を製作したところであろう。

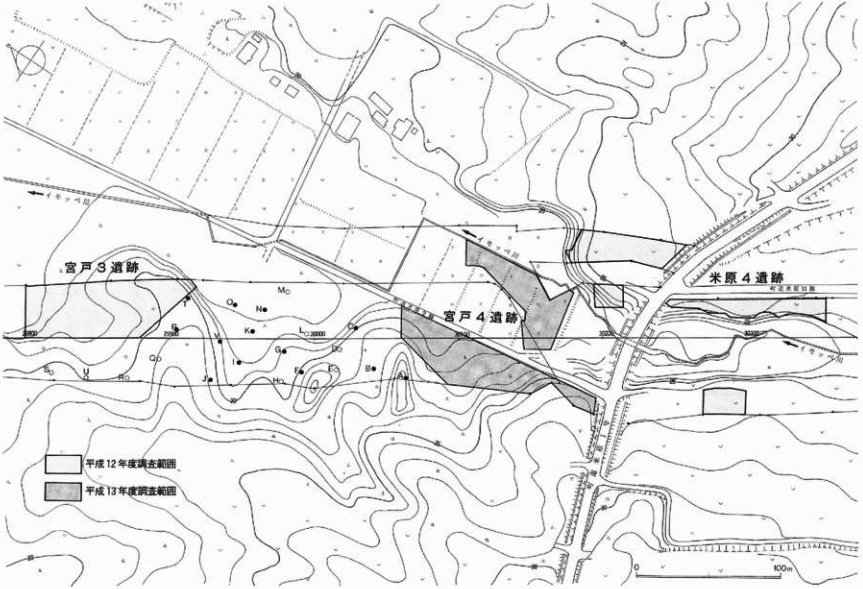
平坦部分では、縄文時代にあってもいくたびかイモッペ川の流路が変化した痕跡が認められ、今回の調査範囲からは明瞭な遺構は検出されなかった。

遺物は、土器22,650点、石器等33,980点、合計56,630点が出土した。縄文時代の遺物包含層の広い範囲にわたって、多量の礫（14.3万点）が含まれていたが、大・中・小の全点を水洗いし詳細に観察した結果、その大多数は自然営力によるものと判断した。土器は擦文時代の高坏１個体分のほかは縄文時代早期、前期、中期、後期のものである。型式的な特徴が判明するものは、東釧路Ⅲ式、コッタロ式、中茶路式、東釧路Ⅳ式、綱文式、静内中野式、植苗式、天神山式、柏木川式、タプコプ式などである。出土状態は、時期の先後関係が包含土層の上下として捉えられるものが多い。

石器は石鏃、石槍、石錐、つまみ付きナイフ、石斧、たたき石、すり石、砥石、台石などがあり、これらの石器の破損品、製作途中での残片なども多い。これらの石器等のほとんどは、縄文時代早期、前期、中期のものとみなされる。石鏃、つまみ付きナイフでは、検出層位およびその形態的な特色からみて、縄文時代早期後半のもの、縄文時代前期前半のものと判断できるものがある。さらに石鏃には、その検出層位、形態的な特色から判断して、縄文時代後期、晩期、続縄文時代のものとみなされるものもある。

土偶の一部かとみなされる、いくぶんのふくらみ部を持つ板状の土製品は、縄文時代前期の土器の出土層位から検出されたものである。

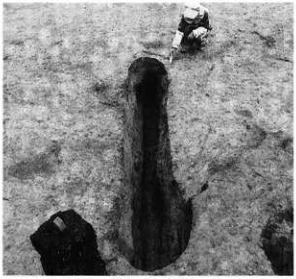
斜面（樹林）部分での試掘調査の試掘穴19ヵ所（A～S）は、その位置を略記してある。黒点は遺物などが検出されたところである。このうちTからは写真に示したような蛇紋岩（カンラン岩？）を素材とした石製品が出土した。石斧の形態を模したものであり、擦り切りの技法が読み取れることから、時期は縄文時代早期の可能性が高い。



年度別調査範囲と周辺の地形

調査風景

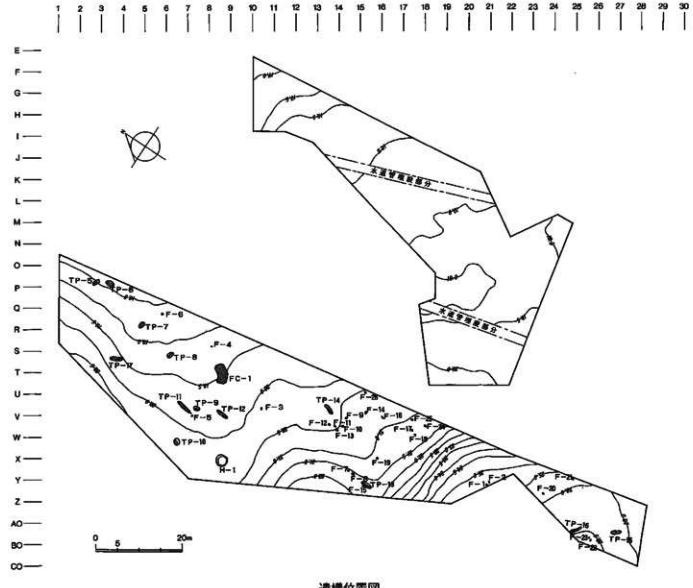
ＴＰ－10　調査状況



ＴＰ－1　完掘

遺物出土状況（綱文式土器）

遺物出土状況（撚文土器）


1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z AO BO CO
TP-5
TP-6
TP-7
TP-8
TP-9
TP-10
TP-11
TP-12
TP-13
TP-14
TP-15
TP-16
TP-17
TP-18
TP-19
TP-20
TP-21
TP-22
TP-23
TP-24
TP-25
TP-26
TP-27
TP-28
TP-29
TP-30
F-1
F-2
F-3
F-4
F-5
F-6
F-7
F-8
F-9
F-10
F-11
F-12
F-13
F-14
F-15
F-16
F-17
F-18
F-19
F-20
F-21
F-22
F-23
F-24
F-25
F-26
F-27
F-28
F-29
F-30
FC-1
H-1
0 5 20m

遺構位置図

作業風景（来年度調査区の発生）

調査風景（B調査）

遺物出土状況（B調査、石製品）

土偶

穂香(ほにおい)竪穴群（N－01－34）

事 業 名：一般国道44号根室道路工事に伴う穂香竪穴群遺跡発掘調査
委 託 者：北海道開発局釧路開発建設部
所 在 地：根室市穂香175番地ほか
調査面積：8,000㎡
発掘期間：平成13年５月７日～10月26日
調 査 員：越田雅司、村田　大、広田良成

遺跡の概要

遺跡は、根室市中心部から南西へ約５km、穂香川左岸の西から東へ張り出した標高約９～13ｍの舌状台地上に位置する。現況は牧草地と笹原の原野で、南側の斜面の一部に雑木が生えている。擦文時代と考えられる竪穴状の凹みが、台地上と海からの冷たい北風を避けた南側の斜面に確認できる。

周辺には国道を挟んだ北側の海岸段丘上に幌茂尻ポントマリ竪穴群、幌茂尻東竪穴群があり、穂香川支流の対岸、南側台地上には穂香３竪穴群がある。また、遺跡から根室市街地方向へ約1.5km行った台地上に国指定史跡の西月ヶ岡竪穴群があり、約300軒の竪穴住居跡の凹みが確認されている。

遺跡は、昭和初期に伊藤初太郎が分布調査を行い、『考古学上の根室の遺物と遺跡』に10軒ほどの竪穴が図面に記載されている。1973年の北地文化研究会の分布調査報告書『根室市市域分布調査報告書』では38軒が記載され、そのほとんどが擦文期のものと報告されている。1993年に根室市教育委員会が発掘調査を行い、５軒の竪穴住居跡が発見された。この調査の際、周辺の地形測量とともに竪穴の分布状況の調査が行われ、調査された５軒の竪穴住居跡を含め62軒が確認されている。今回の調査範囲内にはそのうちの約30軒が含まれ、今年と来年の２ヵ年で調査を行う予定である。

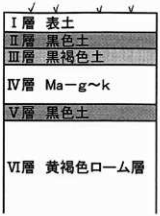
基本土層は、Ⅰ層：表土・耕作土、Ⅱ層：黒色土、主に擦文時代の遺物包含層、Ⅲ層：黒褐色土、主に縄文時代の遺物包含層、Ⅳ層：黄褐色土、摩周火山起源の火山灰層（Ma－ｇ～ｋ）、約7,000年前に降下（非常に崩れやすい砂状の火山灰のため崩落して、竪穴住居跡内に流れ込んでいる）、Ⅴ層：黒色土、縄文時代早期末以前の遺物包含層、Ⅵ層：黄褐色ローム層（多くの竪穴住居跡はこの層まで掘り込んで床面としている）である。

遺構と遺物

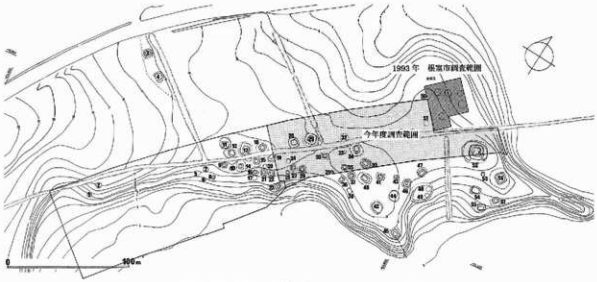
遺構は擦文時代の竪穴住居跡13軒、焼土４ヵ所、集石１ヵ所、縄文時代の土壙２基を検出した。竪穴住居跡は、大きく分けて三つのタイプが見られた。平面形が一辺６～10ｍの比較的大型の方形で、カマドと炉があるもの（Ｈ－６・11・13・14）、平面形が一辺４ｍ程の小形の方形で、炉だけのもの（Ｈ－15・16）、平面形が長方形で炉だけのもの（Ｈ－７・８・10・17）である。カマドがある５軒の住居跡は、調査範囲外におよび全体が明らかではない１軒（Ｈ－18）を除き、カマド反対側の２本の柱穴の内側に、小規模の炉が見られる。また、Ｈ－６・８・14では周堤状の掘上げ土が良好な状態で確認された。さらに、竪穴住居跡に伴うものかどうか不明であるが、Ｈ－11の床面近くで約60点程のガラス玉が、金属製品、ヒスイの勾玉などとともに出土した。上層からの明確な掘り込みなどは確認できなかったが、基の可能性を含め、今後慎重に検討しなければならない事例である。竪穴群の時期は出土した土器から、擦文時代の終わり頃と考えられる。

遺物は約8,000点が出土し、擦文土器、刀子などの鉄製品のほかは、大小の棒状礫が大部分を占める。また、調査区西側の斜面部分で、縄文時代中期末～後期初頭の北筒式の土器や黒曜石製の石器数点が出土し、さらにⅤ層の黒色土からは、縄文時代早期と考えられる蛇紋岩製の石斧が1点出土した。

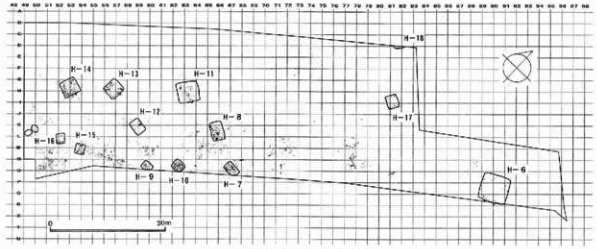
遺跡の位置と周辺の竪穴群



基本土層模式図



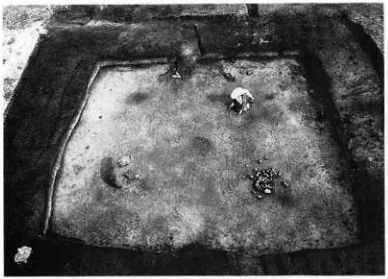
調査範囲（根室市教育委員会　1994に加筆）



竪穴住居跡と遺物の分布

遺跡遠景（西から）

H－6　調査状況（西から）



H－11　（北西から）

H－11　玉類出土状況（西から）

H－8　集石出土状況（北から）

北筒式土器出土状況（東から）

調査状況（南から）

白滝遺跡群

事 業 名：一般国道450号白滝丸瀬布道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：北海道開発局網走開発建設部
調査面積：3,660㎡（3遺跡合計）
発掘期間：平成13年7月16日～9月14日
整理期間：平成13年4月2日～平成14年3月29日
調 査 員：長沼　孝、鈴木宏行、直江康雄

調査遺跡一覧

遺跡名（道教委登載番号）	所在地	調査面積（㎡）
上白滝6遺跡（Ⅰ－20－89）	紋別郡白滝村字上白滝123	670
白滝3遺跡（Ⅰ－20－36）	紋別郡白滝村字白滝106外	2,900
下白滝遺跡（Ⅰ－20－23）	紋別郡白滝村字下白滝99－1	90
	合計	3,660

整理遺跡一覧

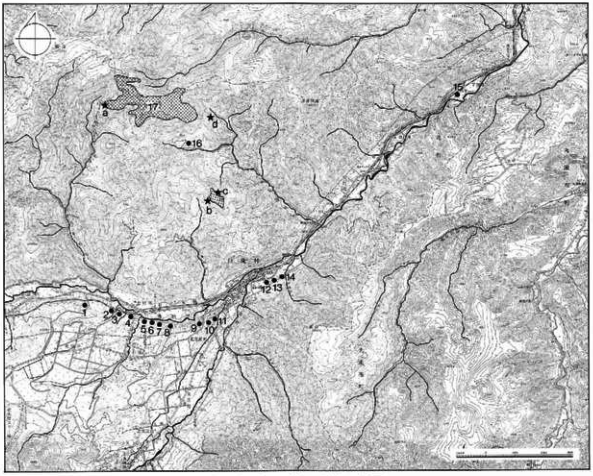
遺跡名（道教委登載番号）	所在地	遺物点数（点）
奥白滝11遺跡（Ⅰ－20－65）	紋別郡白滝村字上白滝52－2	2,376
服部台2遺跡（Ⅰ－20－13）	紋別郡白滝村字奥白滝18－3	798,030
奥白滝1遺跡（Ⅰ－20－50）	紋別郡白滝村字上白滝183－2、183－5	831,924
上白滝8遺跡（Ⅰ－20－91）	紋別郡白滝村字上白滝181－4、182－2、182－3	1,349,748
上白滝5遺跡（Ⅰ－20－88）	紋別郡白滝村字上白滝123－3	86,070
上白滝6遺跡（Ⅰ－20－89）	紋別郡白滝村字上白滝123	1,600
白滝第30地点遺跡（Ⅰ－20－6）	紋別郡白滝村字白滝382－4	4,627
白滝8遺跡（Ⅰ－20－58）	紋別郡白滝村字白滝146－1,146－2	4,036
白滝18遺跡（Ⅰ－20－92）	紋別郡白滝村字白滝145,139－1	47,853
白滝3遺跡（Ⅰ－20－36）	紋別郡白滝村字白滝106外	41,281
下白滝遺跡（Ⅰ－20－23）	紋別郡白滝村字下白滝99－1	1,010
	合計	3,168,555

遺跡群の概要

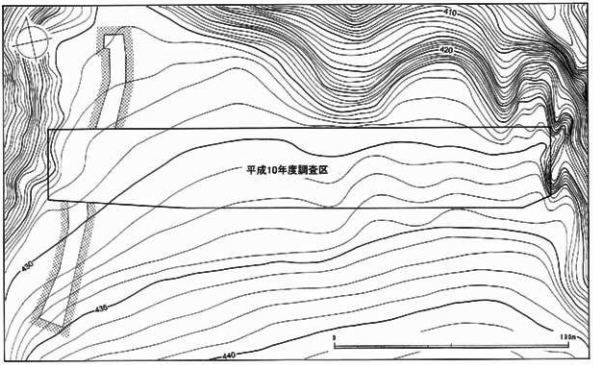
白滝村は、北海道の屋根といわれる大雪山系の東北山麓にあり、市街地の北西約6kmには国内有数の黒曜石産出地として知られる赤石山がある。村内を東西に流れる湧別川とその支流の支湧別川の河岸段丘上には旧石器時代の遺跡が多数所在し、それらは「白滝遺跡群」と総称されている。特に赤石山に通じる八号沢川と湧別川の合流点付近には、白滝第13地点遺跡をはじめ服部台、白滝第32地点、白滝第33地点遺跡など学史的に有名な遺跡が集中している。また、1997年には新たに約20万㎡が国指定史跡に追加され、すでに指定済みの「白滝遺跡」（白滝第13地点遺跡）と合わせて「白滝遺跡群」として名称変更された。

今年度調査した3ヵ所の遺跡は全て湧別川の河岸段丘上に立地しているが、下白滝遺跡は平成7年以来調査してきた奥白滝・上白滝・白滝地区より下流域での初めての調査であった。

基本土層は上白滝6遺跡・白滝3遺跡ではⅠ層：表土・耕作土、Ⅱa層：褐色粘質土、Ⅱb層：灰



赤石山（原石山）と遺跡の位置



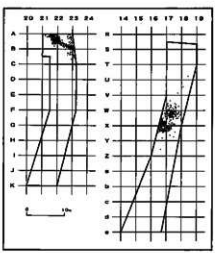
上白滝6　調査区域図

白色粘質土、Ⅱc層：赤褐色砂質土、Ⅲ層：赤褐色砂質土であるが、白滝3遺跡の北東部ではⅡa層下位に赤褐色砂質土・礫混じり砂質土が確認された。下白滝遺跡ではⅠ層が厚く堆積し、その下に礫混じり砂層が確認された。

3ヵ所の遺跡全体で出土した遺物の総数は43,891点、全て石器で上白滝6遺跡の北側地区・白滝3遺跡は旧石器時代、上白滝6遺跡の南側地区・下白滝遺跡は縄文時代のものと考えられる。

上白滝6遺跡の調査

遺跡は白滝市街の西方約3.3km、湧別川と八号沢川の合流点から約2km下流の湧別川右岸段丘上に立地し、標高は約425～435m、湧別川との比高は30～40mである。平成10年度の調査では、石刃鏃を含む石器群のブロック1ヵ所、有舌を含む尖頭器石器群のブロック2ヵ所から5,062点の遺物が出土した。



上白滝6　遺物分布図

今年度は、前回の調査区西側から約8m幅で南北に隣接する地区の調査を行った。遺物総数は1,600点、そのうち1,063点の出土位置を計測した。北側地区ではA－21・22区を中心とした尖頭器を含む石器群のブロック1ヵ所が、南側地区ではW－16・17、X－16区を中心とした石刃鏃を含む石器群のブロック1ヵ所が確認された。定形的な石器は前者からは尖頭器・掻器が、後者からは石刃鏃・石鏃・尖頭器・両面調整石器・掻器・つまみ付きナイフ・削器・石核が出土している。石材は南側地区の頁岩1点を除き全て黒曜石であるが、南側地区では他の遺跡ではあまり利用されない細かい気泡が多く含まれる梨肌の黒曜石が多い。石刃鏃・石刃等の石器類が全て気泡を含まない黒曜石製で、それぞれ単体で搬入されているのと対照的に梨肌の黒曜石は剥片と石核のみで構成され、石器製作が行われた痕跡がみられる。石刃鏃を含む石器群は平成10年度調査区や谷を挟んだ西側の上白滝5遺跡でも確認されているが、今回発見された石刃鏃石器群はこれらに比べ量的にまとまった資料である。

白滝3遺跡の調査

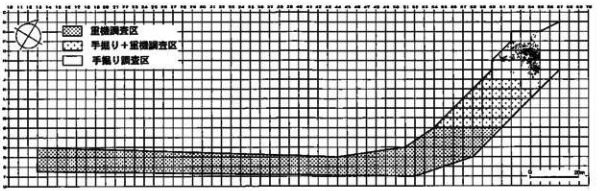
遺跡は、白滝市街に隣接し、湧別川と支湧別川の合流点の南東側、湧別川右岸段丘上に立地している。標高は約370～380m、湧別川との比高は約20～30mである。

調査区のうち西側の3分の2は耕作による撹乱が著しく重機の掘り上げによる遺物の採集を行い、残りの東側は手掘りの調査を行った。遺物総数は41,281点、そのうち1,010点の出土位置を計測した。重機調査区ではR16～21区、R33～36区、R50～53区を中心とした3ヵ所の遺物集中域が確認され、有舌尖頭器・尖頭器・彫器・掻器・石刃核・石核が出土した。手掘り調査区ではF～H－63・64区を中心として段丘の縁に遺物の分布が認められ、尖頭器・小型のものを含む舟底形石器・彫器・掻器・錐形石器・石刃核・石核が出土した。

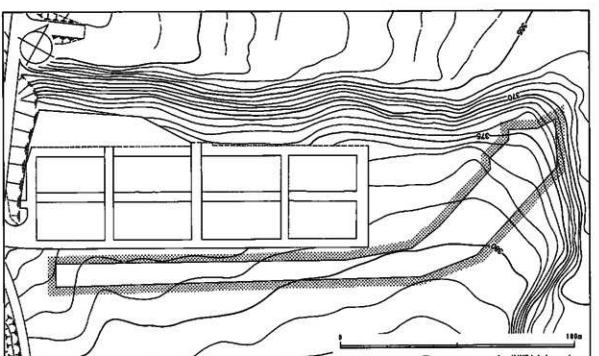
下白滝遺跡の調査

遺跡は、白滝市街の北東約9.5km、丸瀬布市街とのほぼ中間で、村名の由来になっている「白滝」の下流に位置している。標高は約270m、湧別川との比高は約7mである。奥白滝・上白滝・白滝地区の遺跡とは異なり山が両岸に迫る湧別川左岸の狭い段丘上に立地している。

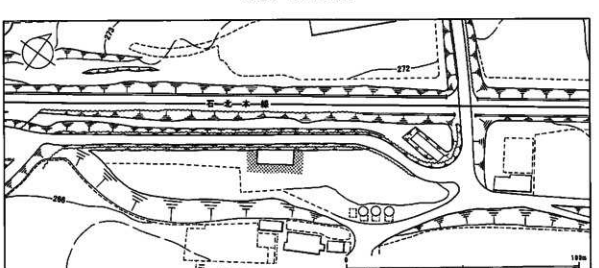
調査区は耕作による撹乱が著しく重機の掘り上げによる遺物の採集を行った。遺物総数は1,010点、全て石器で、縄文時代のものと考えられる。定形的な石器は石鏃・尖頭器・掻器・石核がある。



白滝３　遺物分布図



白滝３　調査区域図



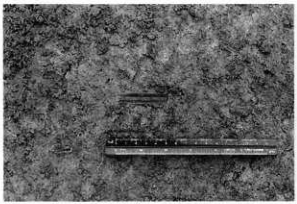
下白滝　調査区域図

上白滝6　北側地区調査状況（北西より）

上白滝6　南側地区調査状況（北東より）

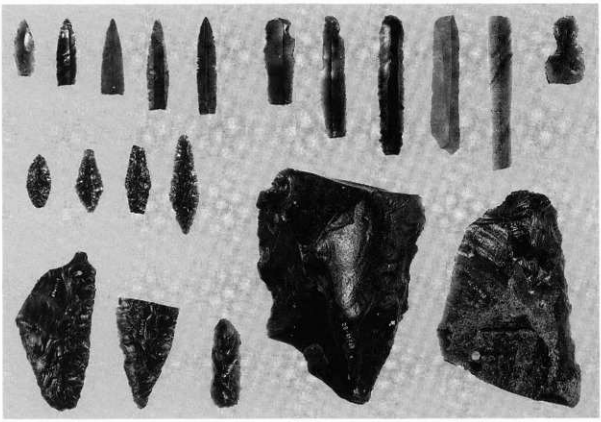
上白滝6　南側地区遺物出土状況

上白滝6　石刃鏃



上白滝6　石刃

上白滝6　石鏃



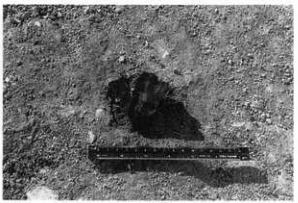
上白滝6　南側地区出土遺物

白滝３　調査状況（南西より）

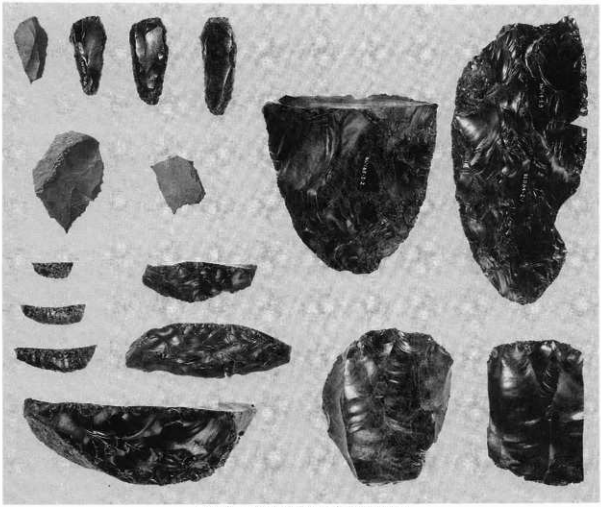
白滝３　遺物出土状況

白滝３　彫器（頁岩）

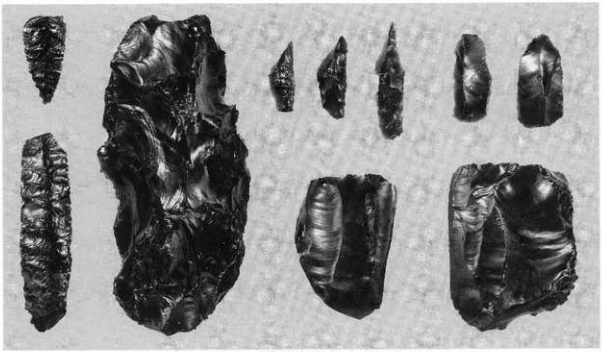
白滝３　小型舟底形石器



白滝３　石核



白滝３　手掘り調査区出土石器（1/2）



白滝３　重機調査区出土石器（1/2）

白滝遺跡群の整理

今年度は昨年度までに調査した服部台２・奥白滝１・上白滝８・上白滝５の４遺跡の二次整理作業と、今年度調査した上白滝６・白滝３・下白滝の３遺跡の一次整理作業を行った。二次整理の状況を遺跡別に説明すると、図化・データ整理は今年度報告の奥白滝１（平成９・10年度調査分）・上白滝５遺跡を、石器接合は来年度以降報告予定の服部台２・上白滝８遺跡を中心に行っている。

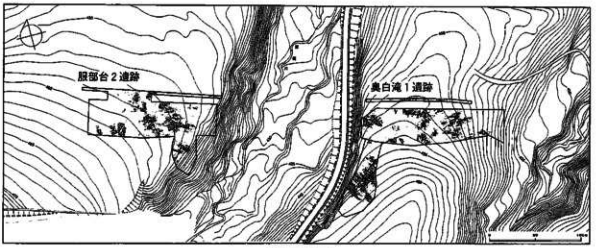
夏期に集中的に整理作業を行った奥白滝１遺跡（平成９・10年度調査分）は、約64万点の遺物が出土し、平面分布から44ヵ所の石器ブロックが確認されている。それらは特徴的な石器類から従来「台形様石器」・「小型不定形剥片石器」などと呼ばれている、剥片の一部に微細な剥離が施されたものを含む石器群（仮称「白滝Ⅰ群」）、「紅葉山型（置戸型）」と呼ばれる円錐形の細石刃核を含む石器群、尖頭器を主体とする石器群の大きく三つの石器群に分けることができる。ここでは「紅葉山型」細石刃核を含む石器群について説明する。

「紅葉山型」細石刃核を含む石器群は、４ヵ所のブロックに分けられ、定形的な石器として細石刃・石刃・掻器・彫器・削器・錐形石器・細石刃核・石刃核・石核がある。接合作業によって石器製作工程が分かる個体が多く得られ、それらを観察した結果、石刃剥離と細石刃剥離が、打面再生・調整を繰り返しながら一連の作業の中で行われていることが分かった。これらはブロック間で多くの接合関係がみられ、そのうち２個体（接合資料1003・接合資料1013）が、沢を挟んだ西側、直線距離で約350m離れた服部台２遺跡の「紅葉山型」細石刃核を含む石器群中の遺物と接合することが確認された。興味深いことにこの２個体では遺跡間接合の状態が異なっている。

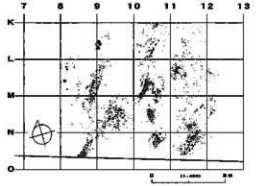
接合資料1003は、奥白滝１遺跡の47個体（点取り遺物52点、Ⅱ層一括10点、Ⅰ層一括６点）と服部台２遺跡の９個体（点取り遺物３点、Ⅰ層一括７点）を合わせた56個体、石刃・縦長剥片・打面再生剥片・剥片・砕片・石核（剥片素材）で構成される。素材はやや角の取れた角礫で、上面と左側面に大きな剥離面のある状態で遺跡に搬入されている。剥離工程をみると、打面再生・調整を行いながら石刃・縦長剥片が石核を周回するように剥離され、途中下方からの剥離も行われる。また、初期段階で剥離された厚手の縦長剥片は、石核の素材となり縦長剥片が剥離されている。奥白滝１資料は外側の石刃・縦長剥片と打面再生・調整剥片で、服部台２資料はその内側に周回するように接合している石刃・縦長剥片である。服部台２資料のすべてが奥白滝１資料の後に剥離されものであることから、原石の状態に近い角礫が奥白滝１遺跡に搬入され、石刃剥離が行われた後、服部台２遺跡に石刃核が持ち出され、石刃剥離が連続的に行われた可能性が高い。

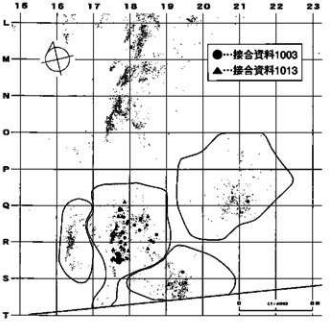
接合資料1013は、奥白滝１遺跡の20個体（点取り遺物24点、Ⅱ層一括１点、Ⅰ層一括３点）と服部台２遺跡の１個体（点取り遺物２点）を合わせた21個体、石刃・縦長剥片・剥片で構成される。角礫を素材とした横断面が凸レンズ状の両面調整体が遺跡に搬入され、打面再生・調整を行いながら一方向に後退するように石刃・縦長剥片が剥離されている。服部台２出土の１個体は石刃で、全体のちょうど中ほどに接合していることから、石刃核のブランクである両面調整体が、奥白滝１遺跡に搬入され、石刃剥離を行った後、その中から石刃を選択して服部台２遺跡に持ち出した可能性が高い。なお、両接合資料とも石刃核は出土していないため、さらに搬出されたと考えられる。

このように奥白滝１と服部台２の遺跡間接合は、沢を挟んだ隣接した遺跡のものであるが、当時の人々の移動経路・形態の一端を議論することできる貴重な資料である。「紅葉山型」細石刃核を含む石器群では、遺跡間接合の他にも多様な接合資料があり、素材の選択や遺跡内への搬入状況を含めた石器製作技術を明らかにすることができる。さらに分布状況と重ねて分析することによって当時の人々の具体的な行動を探ることが可能である。



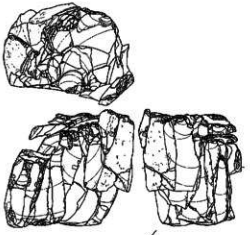
遺跡位置図



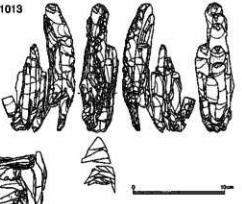


服部台２（左）と奥白滝１（右）の遺物分布図

接合資料1003



接合資料1013



※トーン部分は服部台２出土遺物

対雁（ついしがり）2遺跡（A－02－110）

事 業 名：石狩川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：北海道開発局石狩川開発建設部
所 在 地：江別市工栄町地先（石狩川河川敷緑地内）
調査面積：1,500㎡
発掘期間：平成13年5月7日～10月31日
調 査 員：三浦正人、鈴木　信、西脇対名夫、吉田裕吏洋、酒井秀治

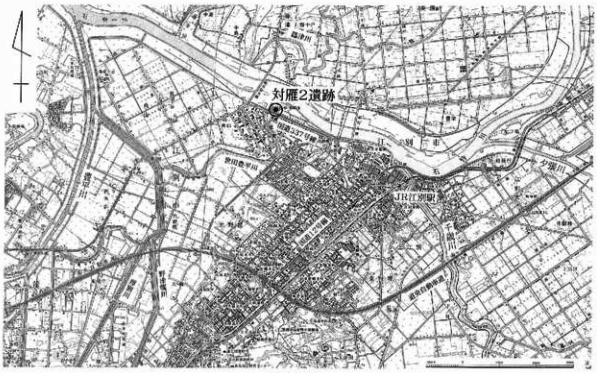
遺跡の概要

遺跡はJR江別駅の北西約4kmの石狩川左岸に位置する。世田豊平川（旧豊平川）との合流地点よりも上流側の石狩川河川敷緑地内であり、標高約8mの微高地に立地する。調査以前に運動公園の造成に伴う均平化を受けている。石狩川の河川改修が本格化する1970年代以前は対雁番屋、樺太アイヌ強制移住地、対雁小学校、榎本牧場などが所在した旧対雁村の中心部がこの付近にあり、江別の歴史を語る上で欠かせない重要な地域である。

昨年の範囲確認調査の結果から遺跡の発掘調査範囲が変更され、要発掘面積は32,500㎡となった。

今年度は遺跡調査の3ヵ年目にあたり、昨年度調査区の西隣1,500㎡の調査を行った。平成11年度の確認調査から判断した遺構・遺物の疎密の状況とは異なり、当初考えられたよりも広い範囲から遺構・遺物が密に検出された。特に155～158ライン付近から多く検出され、遺構・遺物を検出する生活面が薄い間層をはさんで最大14面確認された。出土する遺物は縄文時代晩期後葉のものであり、遺跡はこの時期に形成されたと考えられる。

遺物包含層は世田豊平川（旧豊平川）に向かって落ち込んでいくことが確認され、さらに深部へ続くと見られる。そのため、来年度はさらに深部の調査を行う予定である。

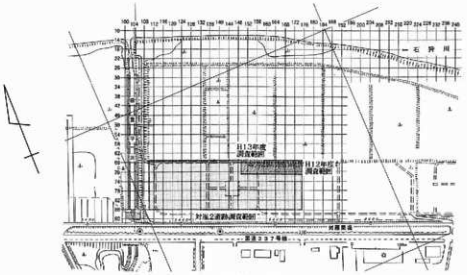


遺跡の位置

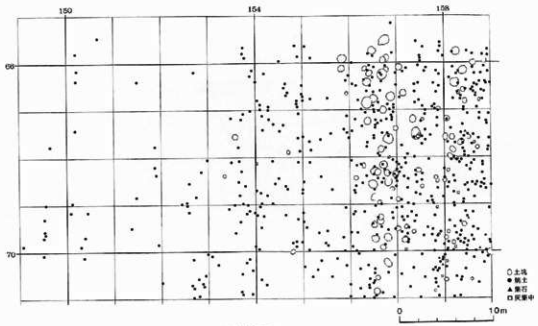
遺構と遺物

遺構は、平成11年度の確認調査で検出したものを含め、土坑102基、焼土543ヵ所、集石８ヵ所等である。遺構の多くは155～159ライン付近に集中して検出された。土坑は礫・礫石器や砂の混入した灰白色の粘土が入っているものがあったが、多くは遺物を伴わない。明確に墓坑と判断されるものはなかった。焼土は炭化物や骨片などを伴うものや廃棄された焼土が集まったようなものが検出された。また、焼土の周囲に土器を安定させるためと考えられる浅い小穴も検出された。

今年度に出土した遺物は、土器約20,000点、石器等約8,000点、合計約28,000点であり、平成11年度の出土品を含めた総数は約39,700点である。土器は全て縄文時代晩期後葉に属するものである。石器等は石鏃、スクレイパー、たたき石が多く、石錐、つまみ付きナイフ、石斧、砥石、台石などが少量出土している。他にはカンラン岩製の玉、土製の玉等が出土している。石器の石材としては、剥片石器が黒曜石、礫石器が安山岩や砂岩が多い。

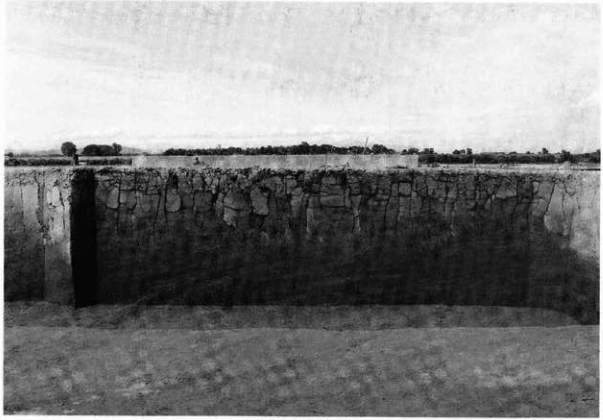


調査範囲図



遺構位置図

調査風景（南から）



基本土層（南西から）

焼土の重複状況〔上からF－41.47.78.80〕（北東から）

P－30　調査風景（北から）

P－49　調査風景（北東から）

ミニチュア土器出土状況（北東から）

石鏃・フレイク出土状況（北から）

野田生（のだない）1遺跡（B－16－47）

事 業 名：北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：日本道路公団北海道支社
所 在 地：山越郡八雲町野田生317－6他
調査面積：8,476㎡
発掘期間：平成13年5月7日～10月31日
調 査 員：種市幸生、菊池慈人、藤井浩、坂本尚史、福井淳一

遺跡の概要

野田生1遺跡は、八雲町南部の「野田生」地区に位置し、標高約40ｍの海岸段丘上に立地する。自動車道建設に伴って設定された調査区は段丘を東西に横断するかたちで、東から順にA地区、C地区、B地区が所在する。

調査はA地区及びB地区の一部を昨年度で終了し、今年度は新たにC地区における遺構確認調査と昨年に引き続きB地区遺構集中部の調査を行った。C地区は昨年度の調査結果に基づいてB地区東側の4,820㎡を拡張して設定されたものである。

B地区は弥之助沢川に面した上下二段の段丘面からなり、遺構の集中する部分は上段の緩斜面部にあたる。また、C地区はB地区に連続する段丘の平坦面に位置するが、グリッド60ラインを頂点に東側40ラインにかけてはきわめて緩やかな傾斜が見られた。遺物包含層はB地区同様に駒ケ岳ｄ火山灰下の黒褐色土（Ⅲ層）が主体で、平均30cmと全体的に浅く、縄文時代後期を中心に中期から続縄文期の遺物が見られた。

遺構と遺物

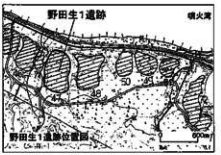
遺構調査は、「明瞭な落ち込みを伴うもの」（A）、「落ち込みのやや不明瞭なもの」（B）、「ローム層面で確認されたもの」（C）、「覆土中に黄褐色ローム土が円形に巡るもの」（M）の4つの確認区分に従って行われた。昨年の（A）（M）に引き続いて今年度は（B）（C）を中心に調査を行った。

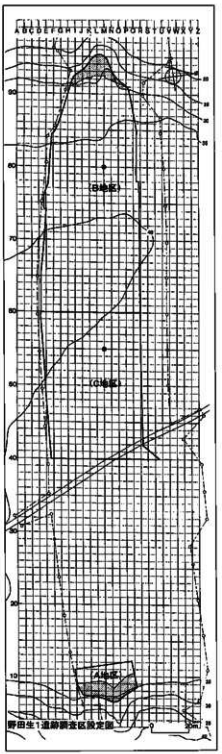
（A）や（M）については、昨年同様の良好な保存状況と複雑な覆土の埋積状況が確認され、大半が縄文時代後期中葉（榎澗式期）のものであることが明らかになった。また、「立石地床炉」や斜面の傾斜方向に沿う「出入り口構造」など住居としての構造も明瞭に確認することができた。

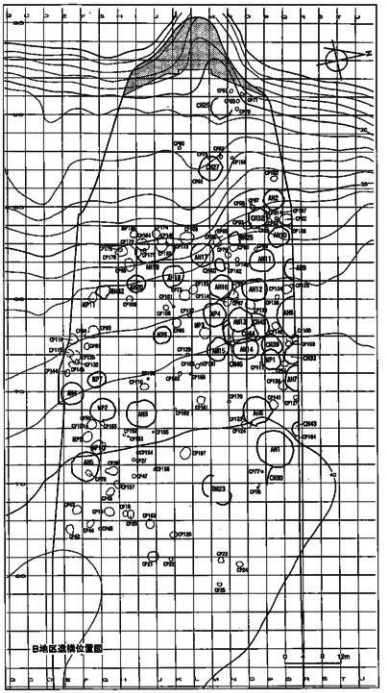
（B）や（C）については、竪穴住居跡5軒（CH）、土壙約100基（CP）などが今年度新たに確認された。竪穴住居跡は3軒が縄文時代中期のもので、縄文後期の竪穴間において確認された。土壙は縄文中期から後期のものなど様々であるが、段丘の縁辺部や配石のある平坦面周辺には、その配置に特徴が認められるものもあり、なかには覆土の埋積状況や配石、石組みを伴うことから墓壙の可能性が強いものも多く認められる。

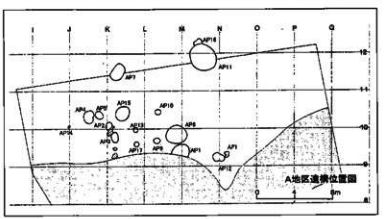
遺物は昨年度分を含めて総計約18万点で、土器11万点、石器・礫7万点を数える。縄文時代中期から後期のものが主体であるが、昨年同様の良好な保存状況が特徴で、遺構内出土の割合が高い。また、ベンガラ、白色粘土、砂、アスファルト塊などの自然遺物が遺構覆土や床面から出土する点も注目される。

	住居跡	土 壙	焼 土	柱穴状ピット	炭化物集中	土器集中	フレイク集中	合 計
A 地 区		17	2		3	7		29
B・C地区	41	120	26	162		50	2	401
合 計	41	137	28	162	3	57	2	430


野田生1遺跡
噴火湾
野田生1遺跡位置図


B地区
C地区
A地区
野田生1遺跡調査区設定図


B地区遺構位置図


A地区遺構位置図

調査区遠景

AH−14

AH−6

AH－7

AH－17　床面土器

MP－5　床面土器

CH－44・45・46

AH－19　出土土器

CH－46　石組み炉

野田生（のだおい）2遺跡（B－16－48）

事 業 名：北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：日本道路公団北海道支社

所 在 地：山越郡八雲町野田生355－12ほか

調査面積：2,186㎡

発掘期間：平成13年5月7日～8月10日

調 査 員：中田裕香、立田　理

調査の概要

遺跡は、八雲町市街地の南東約7.5km、標高32～37mの海岸段丘上に位置し、噴火湾に注ぐ無名の沢をはさんで東側は野田生4遺跡、西側は野田生1遺跡に隣接している。

平成12年度に25%調査を行い、その結果を踏まえて本調査の範囲が決定された。調査は今年度で終了である。

基本土層はⅠ層：耕作土、Ⅱ層：駒ケ岳火山灰d層（Ko－d）、Ⅲa層：黒色土、Ⅲb層：黒褐色土、Ⅳa層：褐灰色土、Ⅳb層：漸移層、Ⅴ層：黄褐色ロームで、遺物包含層はⅢa層～Ⅳa層である。調査区の西側は耕作によって包含層が削平されており、880㎡について遺構確認調査を行った。

遺構と遺物

遺構は、竪穴住居跡7軒、墓4基、土壙30基、柱穴状ピット24ヵ所、焼土13ヵ所、集石1ヵ所、フレイク集中1ヵ所が検出されており、調査区北西の沢に面した緩斜面に分布している。これらのうち、統縄文時代の後北C1式期の焼土3ヵ所とフレイク集中以外は、縄文時代中期のサイベ沢Ⅵ式・見晴町式の時期に属するものが大半である。

竪穴住居跡は円形のものと楕円形のものがあり、3ヵ所にまとまりがみられる。H－6では床面から埋設土器や横倒しになった土器が出土した。掘上げ土上面や覆土から大量の遺物が出土した住居跡（H－1・5）や覆土中に焼土が検出されたもの（H－4）もあり、住居の廃絶後、大安在B式の時期の頃までくぼみを利用して廃棄などが行われていたと考えられる。

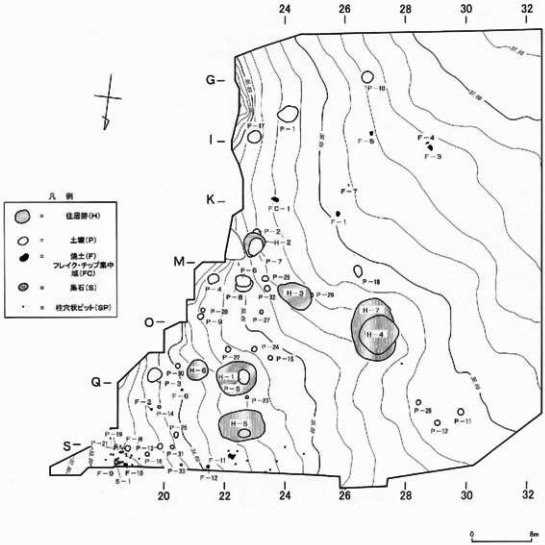
墓は円形のものと楕円形のものがあり、Mライン付近から検出された。壙口から半円状扁平打製石器（NP－25）や焼けた礫（NP－4）の検出されたものや、埋土から土器が横倒しの状態で出土したもの（NP－7）がある。

土壙は住居跡や墓の周囲に散在し、径は1m以下のものから2mほどのものまである。壙底から土器が倒立した状態で検出されたもの（NP－15）や覆土から土器がまとまって出土したもの（NP－3）などは墓の可能性も考えられる。覆土中から石器の出土した例にはNP－13とNP－30がある。前者は両面調整石器3点とフレイク90点が埋納されていた。後者には石皿や北海道式石冠が入れられていた。

柱穴状ピットは調査区の北側から検出され、集石の周囲に多く分布していた。集石は径80cmほどの範囲から砂利が検出されたもので、砂利の下位には焼土が認められた。

遺物は50,375点出土した。内訳は土器15,668点、石器等34,707点である。Lライン以北の出土点数が多く、遺構の分布する範囲にほぼ一致している。

土器は縄文時代早期～後期の土器、統縄文土器が出土しているが、縄文中期前葉～中葉の土器が主体を占める。調査区の北西部では早期の条痕文平底土器、南東部では統縄文時代の後北C1式も出土している。石器はスクレイパーやすり石が多く、石鏃、たたき石、石皿がそれらについで出土している。



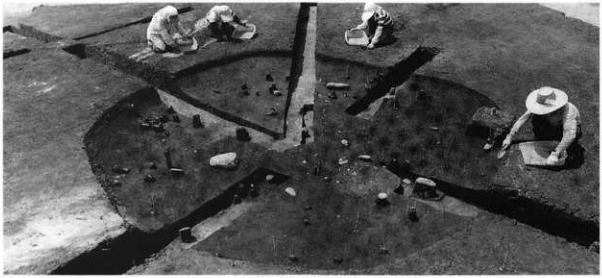
遺構位置図

調査終了状況（西から）

土層断面

H－1 （南から）

H－5 （西から）

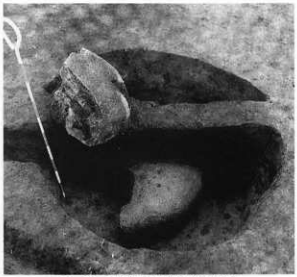


H－4 （南から）

H－6　遺物出土状況（南から）

H－15　遺物出土状況（南から）

P－13　遺物出土状況（北西から）



P－30　遺物出土状況（北から）

野田生（のだおい）4遺跡（B－16－50）

事 業 名：北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：日本道路公団北海道支社
所 在 地：山越郡八雲町野田生384他
調査面積：2,300㎡
整理期間：平成13年4月1日～平成14年3月31日
調 査 員：種市幸生、坂本尚史

遺跡の概要

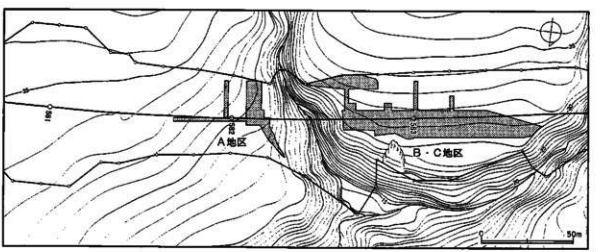
遺跡は、八雲市街の南東約7.5km、標高約25～33ｍの海岸段丘上に位置し、西側は無名の沢を挟んで野田生２遺跡に隣接している。発掘調査は平成12年度におこない、縄文時代中期～縄文時代晩期までの遺構、遺物を確認している。

遺構は、竪穴住居跡２軒、土坑13基、焼土・炭化木片集中１ヵ所である。竪穴住居跡は長径８ｍを超える大型のもの（Ｈ－１）、卵形を呈するもの（Ｈ－２）があり、両者とも住居廃絶後の竪穴を利用して焼土、土坑などが形成されている。土坑は浅い竪穴状のもの（Ｐ－２、Ｐ－３）と長径２ｍほどの楕円で深さ１ｍ前後のもの（Ｐ－４、Ｐ－６）があり、後者は遺物の出土状況から墓の可能性が考えられる。これらは出土遺物から縄文時代中期中葉に構築されたと考えられる。

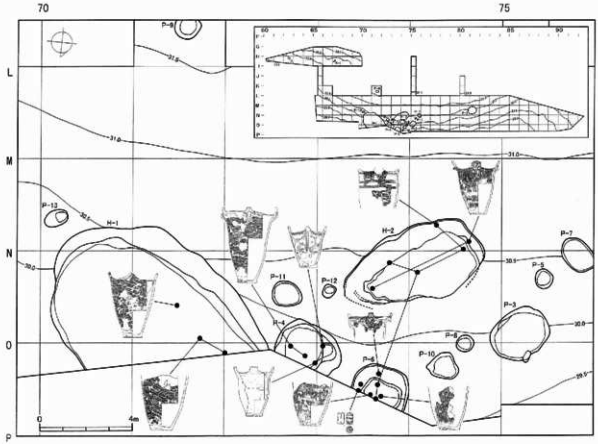
遺物は概数で、遺構から土器1,700点、石器400点、包含層から土器1,500点、土器180点が出土している。遺構出土の土器はサイベ沢Ⅵ式から見晴町式期が主で、大木８式の影響を受けたものもみられる。また、石器はスクレイパーが数量的に主体をなしている。包含層出土の土器は、殆どが遺構に並行する時期であるが、Ａ地区からは縄文時代晩期中葉の土器がまとまって出土している。

整理の概要

整理作業は、遺物分類、土器・石器の接合作業、図化作業、台帳・出土遺物データの整理、現場撮影写真の整理、室内写真撮影、採取土壌のフローテーション作業、分析試料の抽出、報告書作成作業をおこなっている。出土遺物のデータ管理は全てパソコンを用い、出土状況、接合状況の把握などが迅速におこなえるようにした。接合作業は土器を中心に作業を進め、遺構間の接合状況も確認されている。分析は樹種同定、炭化種子分析、放射性炭素年代測定、黒曜石産地分析に関して依頼し、結果は報告書に掲載する予定である。



調査範囲と周辺の地形



遺構出土の主な復元土器

復元土器

落部（おとしべ）1遺跡（B－16－77）

事 業 名：北海道縦貫自動車道路（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：日本道路公団北海道支社
所 在 地：山越郡八雲町入沢374ほか
調査面積：5,471㎡
発掘期間：平成13年5月7日～10月31日
調 査 員：遠藤香澄、藤原秀樹

遺跡の概要

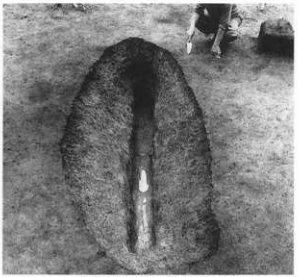
遺跡は、落部川左岸段丘上の北東向き緩斜面に位置し、標高は23～39mである。つつじ祭りで有名な落部公園に隣接し、北から北東方向にかけて噴火湾を望むことができる。

検出された遺構は住居跡2軒、土壙7基、Tピット7基、集石4ヵ所、焼土14ヵ所、炭化物集中1ヵ所である。遺構の多くは遺物を伴わず時期不明のものが多い。

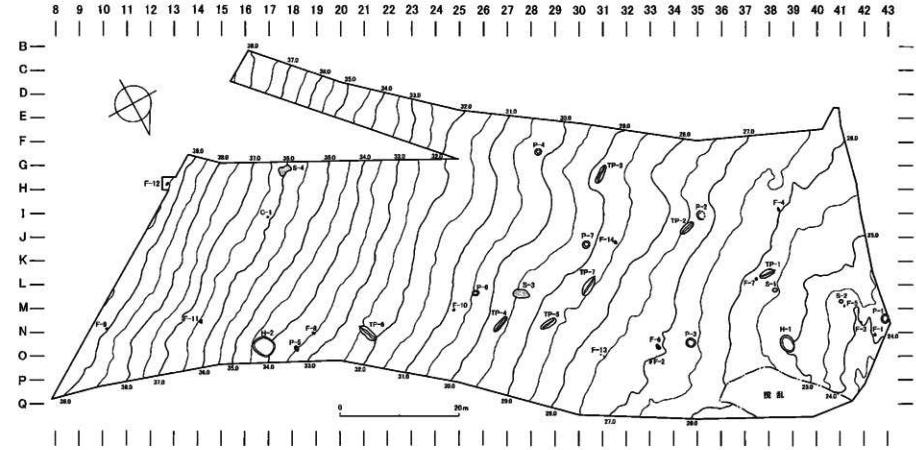
この内、H－1は長軸が3m以下の楕円形で掘り込みも不明瞭な小形の住居跡であったが、覆土中からサイベ沢Ⅵ式に相当する土器が4個体折り重なるように出土した。P－1は壙口部に台石が検出された埋め戻しの土壙で、土壙墓の可能性がある。Tピットは全てが溝状で、長軸方向が傾斜に平行するものが多く、列をなしているものもあった。集石のうちS－1・2は小形の円礫がまとまったものである。全点数の内、10g以下のものが50%以上を占め、中には焼成を受けているものもあった。

遺物は土器・石器などをあわせて約10,000点が出土した。土器は中期前半の円筒土器上層式が多く、中期後半の榎林式が続き、他に後期の天祐寺式（余市式）、晩期の大洞A式、それに続縄文時代の後北C2土器がごく少数出土した。石器は石鏃、石槍、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石斧、たたき石、すり石、半円状扁平打製石器、北海道式石冠、砥石、台石・石皿などが出土した。剥片石器ではフレイクが少なく、定形的石器の比率が高いことが特徴である。礫石器は30ラインより西の斜面下方部分にまとまる傾向がある。

H－1　覆土土器出土状況（北東から）



TP－7　完掘（北西から）


8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43
B C D E F G H I J K L M N O P Q
0 20m
攪乱

遺構位置図

さかえはま
栄浜1遺跡（B—16—33）

事 業 名：北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財調査
委 託 者：日本道路公団北海道支社
所 在 地：北海道山越郡八雲町栄浜200
調査面積：21,700㎡
発掘期間：平成13年5月7日～10月26日
調 査 員：熊谷仁志、谷島由貴、中山昭大、影浦覚、袖岡淳子、大泰司統

遺跡の概要

遺跡は、八雲町の最南部の栄浜地区に位置し、市街地から南東に約18km離れている。南東側は茂無部川を挟み森町と接している。遺跡は海岸段丘面の標高22～50mに立地し、南東側は河岸段丘崖となっている。遺跡範囲は100,000㎡程に広がると思われ、道南でも大規模な遺跡の一つに挙げられる。

発掘調査は昭和56・57年度4,800㎡、昭和60・61年度1,680㎡、平成5年度271㎡、平成8年度1,245㎡が八雲町教育委員会によって行われ多大な成果を挙げている。これらの調査結果から遺跡の東端に位置する標高22～36mの河岸段丘部分では縄文時代前期～中期の大規模集落が形成されていたことが判明している。また、北海道縦貫自動車道に伴う調査は、平成12年度に604㎡を行った。

平成13年度は、海岸線に平行して標高は40～51mの北西から南東に長さ約620m、平均幅約40m、面積21,700㎡に及ぶ調査範囲の調査を行った。

全体の地形は大きく2つ、30ライン付近を境にして、南東側の茂無部川に面した河岸段丘面と北西側の海岸段丘に続く緩斜面に区分される。北西側緩斜面は60ライン付近が高く北西側は緩やかに低くなり北西端で標高約36m、途中2筋の大きな沢と幾つかの沢状の微地形がみられる。

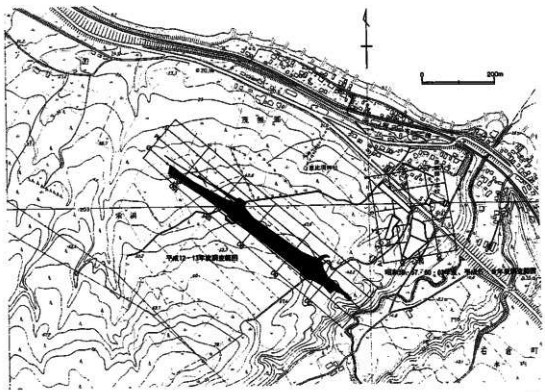
土層は大半が心土耕作で撹乱を受けているが、沢跡など地形の窪んでいる部分や元国有地であったところなどは耕作による撹乱を免れている。基本層序はⅠ層：表土、Ⅱ層：駒ケ岳火山灰d層、Ⅲ層：腐植土、Ⅳ層：漸移層、Ⅴ層：ローム質土である。

遺構と遺物

河岸段丘面はやや平坦になり遺構が密集している。平成12年度は縄文時代後期前葉のフラスコ状ピット14基や小ピット等が検出されている。今年度は、縄文時代中期中葉の竪穴住居跡1軒、後期前葉の竪穴住居跡5軒、後期前葉の土坑8基、焼土、小ピット、集石等を検出した。緩斜面では、縄文時代早期の焼土3ヵ所、中期前葉の竪穴住居跡1軒、土坑8基、統縄文時代後北式期の土壙墓1基（P－20）、擦文時代の土坑1基、集石1ヵ所等が検出した。

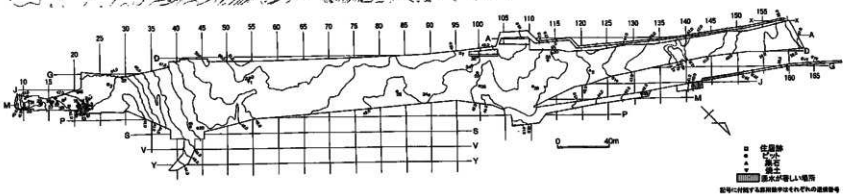
遺物は約33,000点出土し、縄文時代後期前葉を主体としている。とくに、河岸段丘面では遺構とともに遺物も多く出土し、緩斜面では量が少ない。それ以外の時期の遺物は早期前半のものが30ラインの沢とF－116区付近、中期中葉の遺物は河岸段丘の崖よりとB・D－98～120付近から、30ラインの沢から晩期の遺物が出土している。統縄文時代のものはE－42、Ⅰ－100付近から、擦文時代の遺物は115ラインから北西側に出土している。

後期前葉の竪穴住居跡5軒と昨年度検出されたフラスコ状ピットは同一時期の遺構で集落内の配列を窺わせるものである。また、H－3からは三角柱状石製品が出土している。P－20は統縄文時代後北式期の土壙墓で3個体の土器と23点の石鏃等が壙底から検出されている。

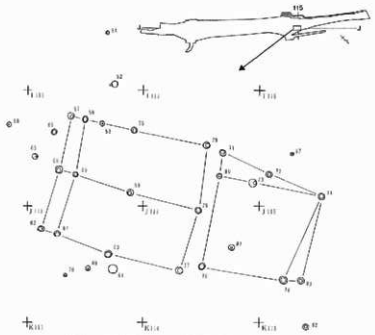


栄浜１遺跡位置図

栄浜１遺跡調査区の設定および位置図

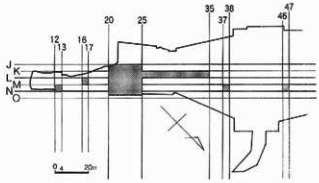


平成12・13年度検出遺構位置図

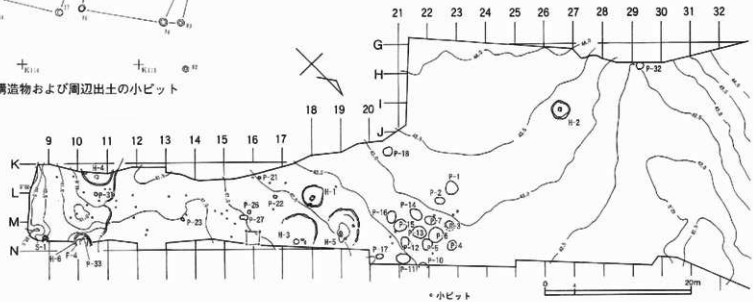


柱立ちの構造物および周辺出土の小ピット

土層柱状模式図



平成12年度調査位置図



G～N－8～32区検出遺構位置図

H－1　完掘

H－2　遺物出土状況

住居跡群　完掘

P－20　遺物出土状況

S－1　遺物出土状況

山崎（やまざき）5遺跡（B－16－62）

事 業 名：北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：日本道路公団北海道支社

所 在 地：山越郡八雲町山崎195－1ほか

調査面積：6,265㎡（平成11年度855㎡、平成12年度5,410㎡）

整理期間：平成13年4月1日～平成14年3月31日

調 査 員：遠藤香澄、皆川洋一、藤原秀樹、立田　理

整理の概要

発掘調査は平成12年度に終了している。前期後半の円筒下層c式期を主体とする住居跡、土壙、土壙墓、フラスコ状ピット、焼土跡、多量のフレイク・チップを含む遺物集中域など多数の遺構と21万点を超える遺物に加え人為的な削平区域とその作業に伴う再堆積層が検出されている。報告書刊行は平成13年度とし、12年度冬期には写真台帳の整理、業図の作成、土器の接合・復元、遺物の実測、拓本作成、集計作業、炭化種子の二次選別までの作業を行い、一部遺構・遺物の仮図版の作成まで終了した。

平成13年度の整理作業は山越3遺跡、山越4遺跡と並行して行っている。年度当初は土器の仮図版の作成、一覧表作成および遺構・包含層の遺物写真撮影を行い、写真図版を完成させた。また、遺構・遺物実測図のトレースが仕上がったものから順に挿図の作成を進め、最終的な割り付け、編集作業は10月に終了した。

山越（やまこし）3遺跡（B－16－45）

事 業 名：北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：日本道路公団北海道支社

所 在 地：山越郡八雲町山越402－1ほか

調査面積：1,632㎡（平成12年度）

整理期間：平成13年4月1日～平成14年3月31日

調 査 員：立田　理

整理の概要

発掘調査は平成12年度に終了している。早期～後期の遺物が出土しているが、主体は中期前半のサイベ沢Ⅶ式期で、同時期の住居跡、土壙、焼土跡、遺物集中域が検出されている。報告書の刊行は平成13年度、山越4遺跡との合冊として刊行することとし、12年度冬期は一部残っていた一次整理作業（遺物水洗、注記、分類）から始めた。その後、原図の見直し、業図の作成、石器の細分類、遺物台帳の修正、炭化種子の二次選別等の作業を行った。

平成13年度4～10月は土器の接合、石器の実測・トレース、遺構図のトレース、拓本、集計作業を中心に行い、実測図のできたものから仮図版の作成も行っている。9月に入ってからの復元作業にあたっては接合台帳を作成するなど、住居跡の各層位間や包含層間の接合関係、同一個体の把握等に努めた。サイベ沢Ⅶ式土器を中心に18個体が復元できた。土器の写真は従来の撮影に加え、残存状態が良好で文様の割付の明瞭な4個体（うち1個は山越4遺跡）について展開写真の撮影を依頼した。このほかの遺物は12月には山越4遺跡のものを含め写真撮影を終了、順次写真図版、挿図の作成を行った。

山越（やまこし）4遺跡（B－16－46）

事 業 名：北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：日本道路公団北海道支社
所 在 地：山越郡八雲町山越336－1ほか
調査面積：2,516㎡（平成12年度）
整理期間：平成13年4月1日～平成14年3月31日
調 査 員：藤原秀樹

整理の概要

発掘調査は平成12年度に終了している。縄文時代前期から続縄文時代までの遺物が出土しているが、主体は中期前半のサイベ沢Ⅵ式期で、同時期の住居跡、土壙、焼土跡が検出されている。12年度の冬期は遺構図等の原図の見直し、素図の作成、石器の細分類、遺物台帳の修正、炭化種子の二次選別等の作業を中心に行った。

平成13年度4～10月は山越3遺跡同様に土器の接合、石器の実測・トレース、遺構図のトレース、拓本・断面実測、集計作業を中心に行った。土器の観察や接合作業では、やや醒れてある2つの地区から出土する土器の時期に若干の相違があることから、とくに包含層間の接合関係や出土状況に留意した。一部遺物分布図・集計表、一覧表の作成、仮図版作成も行っている。また、石器の写真撮影は山越3遺跡のものと共にこの時期行った。10月からの復元作業では今年度から石膏に替え石油系化学樹脂を使用している。当初は作業に日数を要したが、慣れるに従い時間も短縮され、また、従来よりも軽く仕上がり、最後の整形・着色等の作業が不要なことから予想以上の成果を上げている。最終的には29個体が復元できた。11月からは順次写真図版と挿図の作成を進め、12月からは山越3遺跡の資料とあわせ、最終的な編集作業を行った。

復元作業

土器接合作業

図版作成作業

本内川右岸遺跡（B－15－7）

事 業 名：北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：日本道路公団北海道支社
所 在 地：茅部郡森町字石倉町610－7ほか
調査面積：2,746㎡
発掘期間：平成13年9月3日～10月26日
調 査 員：中田裕香、立田 理

調査の概要

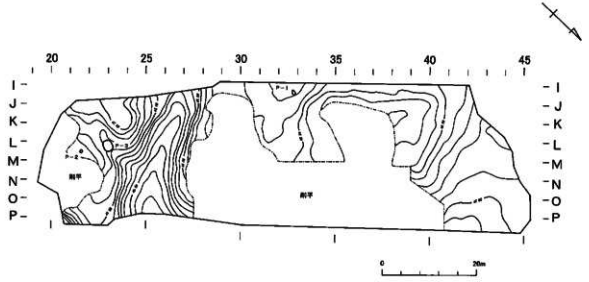
遺跡は、森町市街地から北西に約12km、北西を本内川、南東を三次郎川の支流の沢によって開析された段丘上に立地している。標高は44～48m、海岸線からの距離は約300mである。

基本土層は、Ⅰ層：耕作土、Ⅱ層：駒ケ岳火山灰d層（Ko－d）、Ⅱ´層：灰黄褐色土、Ⅲ層：黒色土、Ⅳa層：暗褐色土～明褐色土、Ⅳb層：漸移層、Ⅴ層：黄褐色ロームで、包含層はⅢ層～Ⅳa層である。調査区は本来、ゆるやかな起伏をなしていたと考えられるが、中央部や南側の尾根状の部分は農地造成や土取りによってⅤ層やその下位の濁川テフラまで削平されていた。調査区の西側と南側には沢跡があるが、南側の沢は耕作時に埋められていた。

遺構と遺物

遺構は、土壙3基が調査区の南西部から検出された。これらの中には石Ⅲ・台石の入れられたもの（P－2）や円筒土器上層b式が横倒しの状態で出土したもの（P－3）がある。

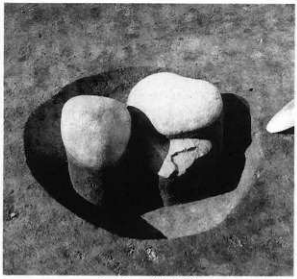
遺物は891点出土した。土器は縄文時代中期から後期前葉のものが主である。石器は石鏃、スクレイパー、石斧、すり石、たたき石、石Ⅲ・台石などが出土している。



遺構位置図

遺跡東部　調査終了状況（西から）

調査状況（南東から）



P－2　（東から）

P－3（西から）

P－3　遺物出土状況（南西から）

濁川（にごりかわ）左岸遺跡（Ｂ－15－22）

事 業 名：北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：日本道路公団北海道支社
所 在 地：北海道茅部郡森町字石倉町401ほか
調査面積：1,300㎡
発掘期間：平成13年７月24日～10月26日
調 査 員：影浦覚、袖岡淳子

遺跡の概要

遺跡は、海岸から約700ｍ内陸の標高37～45ｍの河岸段丘上に立地する。遺跡の南東を流れる濁川を４kmほど遡ると、温泉や地熱発電所で知られる濁川カルデラに至る。遺跡は濁川によって形成された森町側の高い段丘と、無名沢によって開析された八雲町側の一段低い段丘からなる。両段丘の間には古い沢跡が確認され、これを境に高位の段丘をＡ地区、低位の段丘をＢ地区と呼称した。今年度は調査対象範囲4,500㎡のうちＡ地区の濁川段丘縁850㎡と、Ｂ地区の無名沢の段丘縁450㎡につき調査を行った。森町側と八雲町側、調査範囲の南北両端を発掘したことになる。

基本土層はⅠ層：表土層、Ⅱ層：駒ケ岳火山灰ｄ（Ｋｏ－ｄ）層、Ⅲ層：黒褐色土層、Ⅳ層：黒色腐植土層、Ⅴ層：黄褐色ローム質土層、Ⅵ層：黄褐色砂利層からなる。Ｋｏ－ｄ火山灰層は調査範囲全体において層厚約80cmと厚く堆積していた。Ⅲ～Ⅴ層が遺物包含層であるが、縄文時代早期から続縄文時代にかけて時期の異なる土器が同地点、同水準において重なり合って出土した。このため、出土位置の上下関係から遺物の新旧を明らかにすることはできなかった。山地形で漸移層が未発達のため、包含層の流れ込みなど自然作用の攪乱が絶えず繰り返されていたのではないかと推測している。また、Ⅳ～Ⅴ層中には人頭大以上の礫が非常に多く検出された。

遺構と遺物

検出した遺構は住居跡15軒、ピット59基、焼土27ヵ所、小ピット176ヵ所である。住居跡は卵型のものがいくつか見られたが、重複で形状が定かでないものもある。床面に石組みの炉を伴うものが８軒において確認された。Ｈ－15の床面からは縄文時代中期のサイベ沢Ⅵ式から見晴町式相当の土器複数個体が出土した。ピットの中には土壙墓の可能性があるもの６基（Ｐ－１・２・10・11・12・14）と、フラスコ状ピット１基（Ｐ－56）がある。また、176ヵ所が検出された小ピットの中には土器が倒立して１個体埋納されていたものや、底から石斧が出土したものもある。

現在一次整理継続中であるが、遺物総数は10万点を超えることが予想されている。土器の主体は縄文時代中期のサイベ沢Ⅵ式から後期のウサクマイＣ式にかけてのものである。他に縄文時代早期の東釧路式系の土器、前期の円筒土器下層式、続縄文時代の後北式などが出土している。石器はたたき石、扁平打製石器、北海道式石冠、台石・石皿類など礫石器が多く見られる。

H－10・15　遺物出土状況

P－18（手前）・19　遺物出土状況

P－11　遺物出土状況

F－10　確認

H－1　遺物出土状況

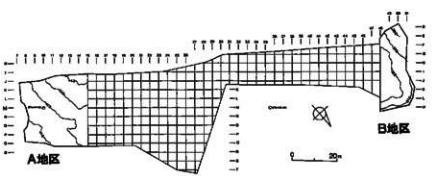
H－1　HF－1　HP－1土層断面

B地区　住居跡群完掘

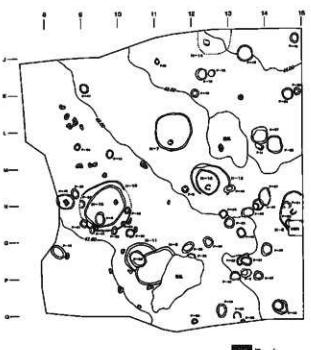
P－2　確認

P－10　土層断面

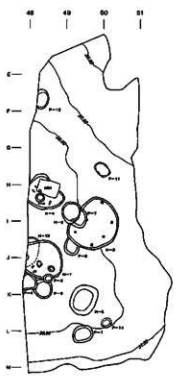
遺跡位置図



グリッド設定図・今年度調査範囲



A地区遺構位置図



B地区遺構位置図

キウス４遺跡（Ａ－03－92）

事 業 名：北海道横断自動車道（千歳～夕張）埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：日本道路公団北海道支社

所 在 地：千歳市中央208－12ほか

調査面積：4,240㎡（Ｒ地区）

整理期間：平成13年４月１日～平成14年３月31日（継続）

調 査 員：佐川俊一、阿部明義、冨永勝也、山中文雄

整理の概要

キウス４遺跡では平成５・７～10年度に発掘調査を行い、北埋調報119集『キウス４遺跡』を初めとして平成12年度までに８冊の報告書を刊行した。

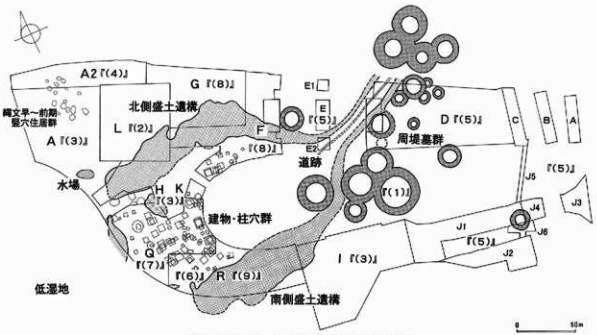
今年度は昨年度に引き続き、約430万点の遺物が出土したＲ地区の整理作業を行った。土器は約650個体を復元した。すべて縄文時代後期後半である。また長期の接合作業により、数多くの接合データを得た。石器は各器種約600点、図版26ページを報告予定である。木製品は保存処理を進行中で、脚付容器など希少なものの一部を元興寺文化財研究所に委託している（平成14年度終了予定）。骨片や炭化種子などの微細遺物については、フローテーション資料の選別・同定作業により膨大な資料を得、当時の動物相・植物相やその利用などが明らかになってきている。以上の整理作業は、保存処理を除き今年度に終了する予定である。

また今までに刊行された報告書などから、キウス４遺跡全体のまとめを若干行う予定である（表１・２例）。報告書の刊行は、平成14年度を予定している（『キウス４遺跡（９）』）。

表１　キウス４遺跡　全地区遺構・遺物集計

報告書	地区	調査面積（㎡）	調査年（現地）	遺構						遺構			
				周堤墓	竪穴住居	建物跡	土壙・柱穴等	焼土	その他	土器等	石器等	木製品等	その他
『[1]』	（全域）	(3,380)	H5	7		1	多数	多数		19,108	881		自然遺物
『[2]』	L	3,930	H8		1		3	715	北側盛土	346,733	58,317	37	未塗り弓他
『[3]』	A	4,750	H9		17		258	61	木場・盛土	152,196	34,573	2	自然遺物他
	H	640				5	878	23	盛土	33,708	8,081	1	自然遺物
	K	200				2	236	3		10,956	895		
	I	5,400					29	1,535	南側盛土	39,275	25,447		磁器・鉄
『[4]』	A2	2,230	H10		5		139	65		13,563	7,843	690	自然遺物他
『[5]』	A・B・C・D・E・E1 E2・J1～6	13,285	H7・9・10	13	1	1	54	471	直線状盛土・道路・Tピット・炭窯	18,036	7,979		鉄製品・古銭 他
『[6]』	R	4,240	H10		2	127	1,488	248		4,948	1,118	1	自然遺物
『[7]』	Q	3,920	H10		3	110	3,897	52	溝・盛土	105,921	28,130		自然遺物
『[8]』	F・G	7,674	H10			21	1,147	2,227	北側盛土	987,450	164,148		自然遺物他
『[9]』	R	(4,240)	H10（・11）					323	南側盛土	約3,300,000	約1,000,000	約150	自然遺物多量
合計		46,269＋@		20	29	266	8,129＋@	5,723＋@		約5,030,000	約1,340,000	約880	

・報告書－『[2]』・『[3]』……は『キウス４遺跡[2]』・『キウス４遺跡[3]』……をさす。
　なお『[1]』とは、北埋調報119集『キウス４遺跡』をさす。
・調査面積－『[1]』は全域のトレンチ調査のため重複する部分がある。『[6]』『[9]』は同地区。
・調査年度－『[9]』のH11は遺物・土壌水洗。
・遺物－『[9]』の集計は完了しておらず、最終的には表記以上になる。
・千歳市教育委員会による調査分はこの表には含んでいない。



キウス４遺跡　主な遺構群と掲載報告書

・『(2)』・『(3)』…は『キウス４遺跡（2）』・『キウス４遺跡（3）』…をさす。
なお『(1)』とは、北埋調報119集『キウス４遺跡』をさす。

表２　キウス４遺跡報告書　簡易索引

主なテーマ		主な報告書掲載ページ	内　容
周堤墓	記載	『(1)』p.25～47	X－1～7（・8・9）のトレンチによる確認調査
		『(5)』p.37～111	X－10～17・α、周堤墓内の墓壙31基（４体合葬墓など）
	考察	『(5)』p.228～266	研究史、周堤墓の分布、周堤墓の分類、キウス周堤墓群との関係、キウス４遺跡の周堤墓の築築過程など
建物・柱穴群（縄文後期）	記載	『(6)』p.23～249	建物跡127件、土壙10基、フラスコ状ピット２基など
		『(7)』第１p.28～178・194～203 第２p.7～236	建物跡110件、土壙墓８基、フラスコ状ピット３基、土抗26基など（遺体の痕跡がある土壙墓、炭化ドングリ入り柱穴あり）
		『(8)』第１p.238～314	建物跡21件、土壙墓14基、フラスコ状ピット３基、ロームピットなど
	考察	『(6)』p.359～369	建物跡および柱穴状ピットの分類・新旧関係『道跡』など
		『(7)』第２p.359～373	規模による建物跡の分類、重複関係、配置、集落構成など
		『(8)』第１p.371～384	建物の方位・配列、出入り口付き住居跡出遺跡一覧など
盛土遺構	記載	『(2)』p.50～183	北側盛土の最厚部の一部を３ブロック分け
		『(3)』第１p.312～342 ほか	北側盛土の一部と南側盛土の一部
		『(8)』第１p.25～71	北側盛土22層分層、層位別堆積図など
		『(9)』（未刊）	南側盛土上下２層14ブロック分け、層厚図など
	考察	『(9)』（未刊）	盛土遺構形成過程など（予定）
水場・河川利用（縄文後期）	記載	『(3)』第１p.81～103	湧水を利用したと考えられる水場遺構
		『(9)』（未刊）	斧の柄・容器など多様な木製品、旧河道跡の杭列など
	考察	『(9)』（未刊）	（未定）
土器編年等（縄文後期）	考察	『(2)』p.379～399	堂林式研究史、文様の分類、各種組分析、微隆線の土器
		『(8)』第１p.385～412	搬入土器、接合関係、縄文後期後半～晩期の編年
		『(9)』（未刊）	搬入土器、接合関係、縄文後期後半の編年（予定）
縄文早～前期の竪穴住居群など	記載	『(3)』第１p.44～80	早期後半の６軒、前期前半の大型住居跡２軒など
		『(4)』p.67～104	早期後半～前期前半の住居跡５軒、土壙、焼土など
	考察	『(4)』p.219～231	早～前期の集落構成、土器編年、木製品についてなど
キウス４遺跡のまとめ		『(9)』（未刊）	遺跡の変遷、遺構・遺物のまとめ、索引など（予定）

ユカンボシC15遺跡（A－03－263）

事 業 名：北海道横断自動車道（千歳～夕張）埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：日本道路公団北海道支社

所 在 地：千歳市長都1190－11ほか

調査面積：14,880㎡（平成8年度：3,025㎡・平成9年度：8,855㎡・平成10年度：3,000㎡）

整理期間：平成13年4月1日～平成14年3月31日（継続）

調 査 員：三浦正人、鈴木信、吉田裕吏洋

遺跡の概要

ＪＲ千歳駅の北方約6kmに位置する。往時、千歳川・長都川・ユカンボシ川等の水を集めた長都沼が広がる停滞水域・低湿地の西端部で、ユカンボシ川に対応する標高５～９ｍの地帯に営まれた、旧石器～近世アイヌ文化期の複合遺跡である。主体となる擦文～アイヌ文化期では、ＩＢ4～ＩＢ1・０Ｂ層から、１万点以上もの木製品が出土している。ＩＢ３層中には10世紀前葉の降下である白頭山－苫小牧火山灰（Ｂ－Ｔｍ）が断続的に分布する。木製品には、舟とその関係品・生活用品・狩漁具・祭祀具・建築材のほか、漆椀・曲物・竹製品などの本州産品も含まれている。

整理概要

調査は平成８・９・10年度に行われ、順次整理作業が継続されて、昨年度まで4冊の報告書を刊行している。通算5冊目となる今年度の報告は、西側低湿部のＩＢ２・ＩＢ１・０Ｂ層の木製品約4,600点と未報告の分析・鑑定の結果の一部を掲載する。

木製品は、分類補正・台帳訂正・実測図作成・樹種同定・保存処理・接合復元・写真撮影を進めている。分類補正や台帳訂正は、木製品台帳をパソコンに入力して整理し、カード書き替えや写真整理等と連動を図る作業として継続している。実測図と写真は、小型品を机台上で大型品を床面でと、大きさ長さにより対応した方法で実施している。樹種同定は、独立行政法人森林総合研究所　平川泰彦氏の指導のもとに、生物顕微鏡・走査型電子顕微鏡を使用して作業している。保存処理は、マンニトール＋ＰＥＧ含浸による真空凍結乾燥法とＰＥＧ含浸法で対処している。立体的・脆弱なものについては実測図作成や写真撮影に供する復元接合のため、報告が終了したものを強化・収蔵のため計画的に進めている。また比較的短期間で処理が進む小型品を主体にして、釜石文化財保存処理センターにも依頼している。今年度で木製品の保存処理全体の約半数が終了する予定である。

前年度までの報告書の主な内容

［平成９年度　千歳市ユカンボシC15遺跡（１）北埋調報128集］

東側①③区の台地・低湿部の遺構と遺物

擦文文化期の周溝のある墓や土坑墓・擦文～アイヌ文化期の木製品など

［平成10年度　千歳市ユカンボシC15遺跡（２）北埋調報133集］

西側②④区の縄文時代の遺構と遺物・旧石器時代の石器と木本遺存体

［平成11年度　千歳市ユカンボシC15遺跡（３）北埋調報146集］

西側②④区の台地の擦文～アイヌ文化期の遺構と遺物

同低湿部の擦文文化期前期以前の遺構遺物（木製品など）

住居跡・建物跡・土坑墓・焼土等・擦文土器・石器・金属製品・擦文文化期前期の木製品

［平成12年度　千歳市ユカンボシC15遺跡（４）北埋調報159集］

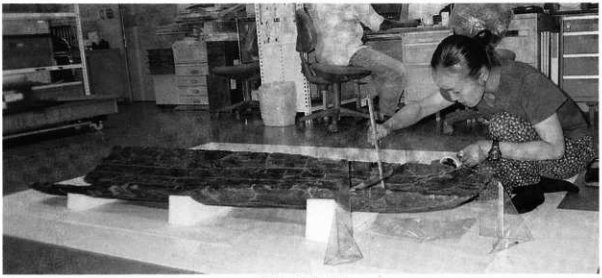
西側②④区の低湿部ＩＢ３層より上位の遺構と木製品以外の遺物全て

同低湿部の擦文文化期中後期（ＩＢ３層）の木製品

舟敷　出土状況（北西から）

舟敷　接合風景

舟敷　撮影風景



舟敷　実測風景

ケネフチ９遺跡（Ａ－03－276）

事 業 名：舞鶴追分線特改一種工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：北海道札幌土木現業所

所 在 地：千歳市協和443番２号

調査面積：320㎡

発掘期間：平成13年６月11日～８月31日

調 査 員：冨永　勝也、佐川　俊一

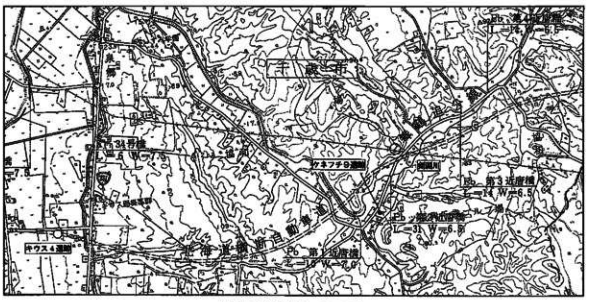
遺跡の概要

遺跡は、千歳市の東に隣接する追分町の市街地から西方に約４km、チプニー１遺跡から東方約4.5kmの位置にある。かつて松浦武四郎がこの地を通過したことが、安政４年の踏査記録『丁巳東西蝦夷山川地理取調日誌』の「夕張日誌」の記録にある。現在の剣淵川の語源、ケヌフチは千歳市史によるとkene（-us）-put「ハンノキ（群生する）川口」という意である。また永田方正『北海道蝦夷語地名解』には「Kene-use-pet　ケ子ウシュペツ　赤楊川」と記載されている。遺跡が所在する協和は、昭和26年にそれまでのコムカラを改称した地名である。

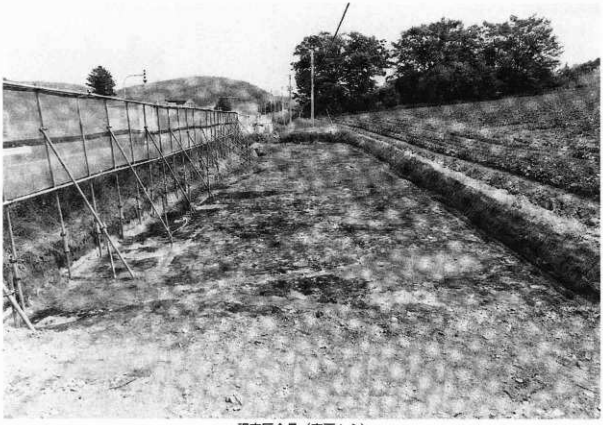
調査区の土層の状態は、Ⅰ層：表土、Ⅱ層：樽前ａ降下軽石堆積物、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：樽前ｃ降下火砕堆積物、Ⅴ層：黒色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：恵庭ａ火山灰風化層、Ⅷ層：同降下軽石層である。Ⅴ層中には樽層の軽石が多く含まれており、黒色土が傾斜面に堆積していく過程で何度かの撹乱があることがうかがわれる。またⅤ層中には、南側の丘陵部からの地下水が流れ、調査区内に絶えず供給されている状況であった。

出土遺物

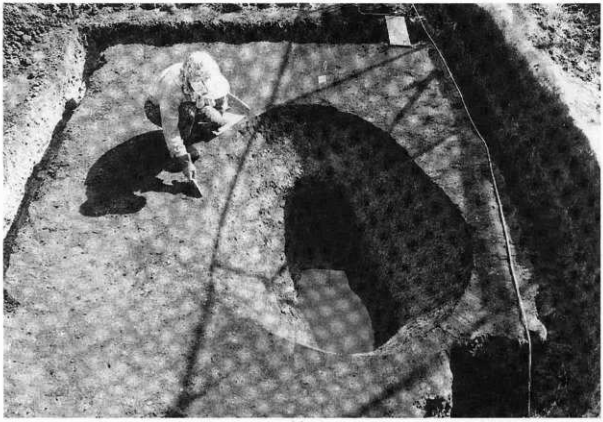
調査の結果確認された遺構は土壙10基（内２基がⅢ層下面）、Ｔピット４基、焼土２ヵ所である。遺物は主にⅤ層より出土した。縄文後期のウサクマイＣ式と前期の綱文式を主体とし、早期の東釧路Ⅳ式をわずかに含む土器1,427点、フレイクチップを主とする石器7,850点、そのほかに近世の遺物等25点が出土し、総遺物点数は9,302点である。



遺跡の位置（１：50,000）



調査区全景（南西から）



ＴＰ－１　完掘（北東から）

西島松（にしじまつ）５遺跡（Ａ－04－38）

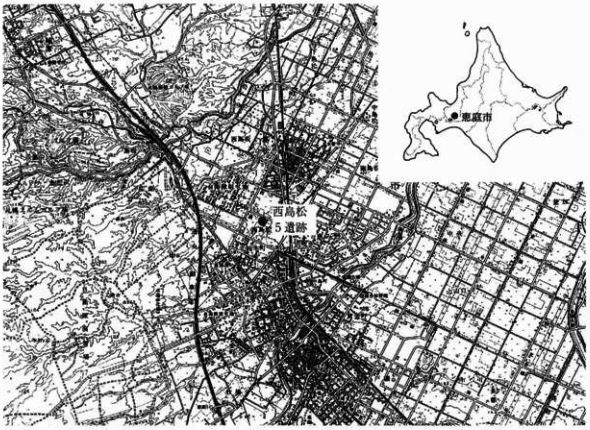
事 業 名：柏木川河川改修工事に伴う発掘調査
委 託 者：北海道札幌土木現業所
所 在 地：恵庭市西島松543,544-1～3,546-1,2
調査面積：3,123㎡
発掘期間：平成13年５月７日～10月31日
整理期間：平成13年４月１日～平成14年３月29日
調 査 員：和泉田毅、新家水奈、佐藤剛、石井淳平

基本層序模式図

遺跡の概要

遺跡は、恵庭市の西側、JR恵み野駅から北西約800mのところに位置する。遺跡の東を柏木川、西を柏木川の支流であるキトウシュメンナイが流れ、遺跡は、この二つの小河川に挟まれた標高約25mの低い台地上に立地する。

今年度の調査では土器約52万点、石器約10万点、合計約62万点の遺物が出土した。遺構は竪穴住居跡９軒、土坑113基、Ｔピット２基、焼土98ヵ所、柱穴1,498基を検出した。昨年度の調査で検出した北大Ⅲ式期の土壙墓や、周溝のある墓は確認できなかった。さらに、柏木川の低位段丘面に続く段丘斜面の２ヵ所と台地上の１ヵ所で、多量の遺物を含む堆積層を確認した。人為的な堆積層の可能性が高いと判断し、盛土遺構と仮称した。



遺跡位置図

遺構と遺物

・盛土遺構（仮称）

段丘斜面２ヵ所、台地上１ヵ所で確認し、ＭＡ、ＭＢ、ＭＣと呼称した。

ＭＡは柏木川の低位段丘面へと続く段丘斜面に形成され、柏木川の蛇行によって形成された湾曲部分を埋めるように堆積する。集計が完了していないため不正確であるが、30～40万点の遺物が出土している。出土土器は御殿山式に属するものが多く、下層では堂林式、上層では大洞ＢＣ式並行のものが出土する。

ＭＢはＭＡより20mほど上流に位置する。規模はＭＡより小さく、出土遺物も少ない。出土遺物は堂林式期から縄文時代中期のものが多い。

ＭＣは台地のほぼ中央に広がる。調査区外にもさらに広がるものと推測され、一部は昨年度の調査区にも広がっていたようである。御殿山式から大洞ＢＣ式並行の遺物が出土している。

・竪穴住居跡

９軒検出した。時期のわかるものは縄文時代早期３軒、前期２軒である。このうち早期の１軒は長径が10mを越える大型のものである。

・土坑

131基検出した。多くは用途不明の掘り込みであるが、縄文時代後期後葉から晩期前葉にかけての土壙墓もいくつか含まれると考えている。

・Ｔピット

２基検出した。長径３m、下端の幅約10～20cmである。昨年度の調査でも同様の規模・形状をもつＴピットを検出した。比較的近い時期に構築されたと考えるが、時期は不明である。

・焼土

98ヵ所で検出した。Ⅱ層上面からⅢ層上面までの様々なレベルで検出されていることから、縄文時代早期から擦文時代までの幅広い時期のものが存在すると考える。

・小ピット

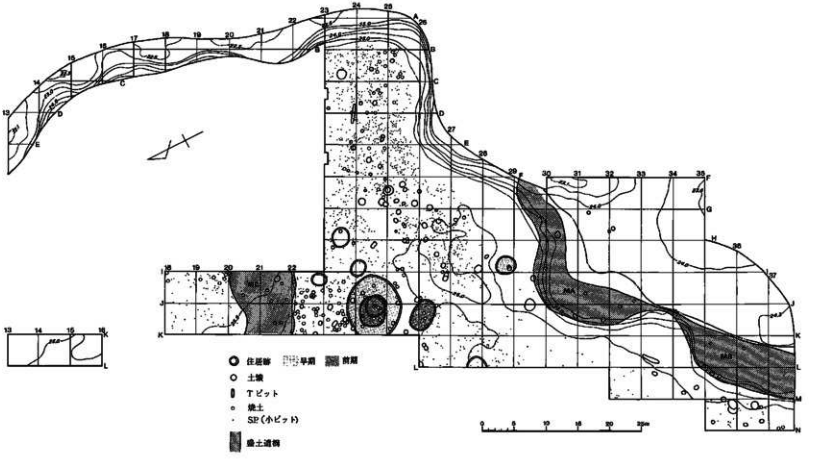
1,498基検出した。直径10～20cm、深さ10～50cm程度のものが多く、住居や建物を構成する柱穴であると考える。ほとんどの柱穴は堀方を有するが、まれに打ち込まれた杭状の柱穴も存在する。一部の例外を除き、住居や建物を構成する柱穴の組み合わせは確認できない。周辺の遺物出土状況から、小ピットの多くは縄文時代後期後葉から晩期前葉に属すると考える。

整理概要

平成12年度調査の報告書作成作業を行った。このうち、段丘斜面の出土遺物については、今年度調査で出土した遺物と同時に整理・報告することとし、整理作業の対象から外している。

整理作業は接合・復元、実測図・拓影図の作成、図版作成、フローテーション試料から抽出した獣骨の分類を行った。

さらに、昨年度に引き続き、北大Ⅲ式期の土壙墓から出土した金属製品の保存処理を行っている。今年度は観察カードの作成、Ｘ線写真撮影、クリーニング、実測図作成、脱塩、樹脂含浸を行った。これらの作業は平成14年度も引き続き行う予定である。また、残存状態の良好な刀剣類20点は、㈱元興寺文化財研究所保存科学センターに保存処理を委託している。



遺構位置図

西島松（にしじまつ）９遺跡（Ａ－04－02）

事 業 名：柏木川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：北海道札幌土木現業所
所 在 地：恵庭市西島松517
調査面積：1,800㎡
発掘期間：平成13年5月７日～７月31日
調 査 員：新家水奈、佐藤　剛

遺跡と調査の概要

遺跡は、柏木川の左岸、西島松５遺跡の南東側対岸に位置する。調査区のほとんどが水成堆積による地層であり、深いところでは２メートル近い河道跡が形を変えながらも旧柏木川に流れ込んでいたことを確認した。基本土層は西島松５遺跡と同じであるが、河道跡の調査は、遺物包含層に相当するⅡ層をさらに細分しておこなった。

遺構と遺物

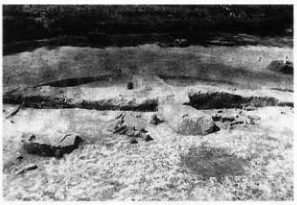
今回の調査で検出された遺構は、住居跡１軒、フレイク・チップ集中２ヵ所、柱穴・杭穴13ヵ所、焼土10ヵ所である。

住居跡は一部を河道跡によって壊されている。床面出土土器片から、縄文時代中期後半（北筒式）の時期に相当することがわかる。また、床面には炭化材や焼土が散乱していることから、焼け落ちたものと考えられる。

河道跡からは縄文時代早期末（東釧路Ⅳ式）～晩期初頭（大洞Ｂ式相当）の遺物が出土した。河道跡よりも上の層からは７世紀頃（続縄文時代末あるいは擦文時代初頭、十勝茂寄式）の遺物と、同時期と考えられる骨片やフレイクを伴う焼土を検出した。

遺物は、遺構から土器計316点、石器1,879点、包含層から土器2,282点、石器1,207点が出土しており、遺構、包含層ともに骨片や炭化材等も検出した。

沢跡調査風景


Ｈ１　遺物出土状況

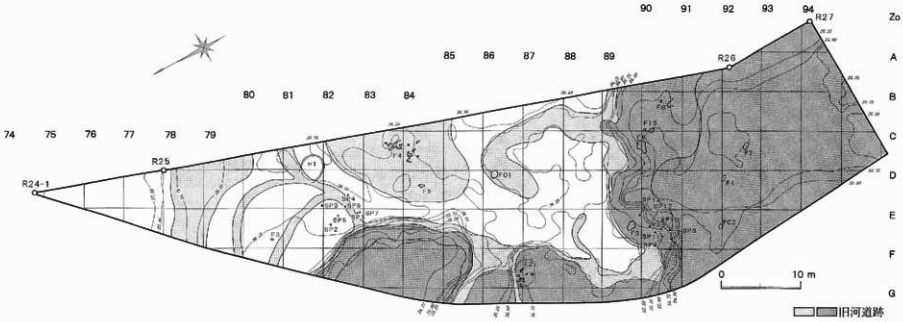
盛土遺構（MA）全景

盛土遺構（MA）断面

台地上完掘

盛土遺構（MA）遺物出土状況

早期・前期竪穴住居跡完掘



西島松９遺跡遺構位置図

3　研修・研究会等

（1）研修・研究会等

＊奈良国立文化財研究所埋蔵文化財発掘技術者専門研修（奈良市）		
「報告書作成課程」	村田　大	1月10～19日
「遺跡写真課程」	大泰司　統	1月25～31日
＊奈良文化財研究所埋蔵文化財発掘技術者専門研修（奈良市）		12月17～21日
「遺跡地図情報課程」	袖岡　淳子	
＊衛生管理者免許試験受験準備講習会（札幌市）		5月23～25日
	芝田　直人	
	山中　文雄	
＊全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会（徳島市）		6月7・8日
	大澤　満	
	吉田貴和子	
	小笠原　学	
＊日本文化財科学会	田口　尚	6月22～25日
＊平成13年度第1回全国埋蔵文化財法人連絡協議会		
コンピュータ等研究委員会（名古屋市）		6月28・29日
	阪口　博治	
	越田賢一郎	
	倉橋　直孝	
＊第13回「埋蔵文化財写真技術研究会」（奈良市）		7月6・7日
	中山　昭大	
	吉田裕吏洋	
＊保存処理依託先の施設および業務内容の視察		7月6日
	田口　尚	
＊平成13年度「地域視覚教材制作研修講座」（札幌市）		7月25～27日
	倉橋　直孝	
＊「算定基礎」事務説明会（札幌市）		7月11日
	小杉　充	
＊平成13年度　全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会（盛岡市）		10月4・5日
	村山　誠巳	
	礪田　千秋	
＊平成13年度北海道教育関係公益法人研修会（札幌市）		10月19日
	吉田貴和子	
	阪口　博治	
	菅野　聡	
＊平成13年度埋蔵文化財法人連絡協議会北海道・東北地区会議（山形市）		10月24・25日
	立川トマス	
	菅野　聡	
	葛西　宏昭	
＊平成13年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会		
北海道・東北地区コンピュータ等研究委員会（いわき市）		10月25・26日
	大沼　忠春	
	倉橋　直孝	

＊平成13年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会		10月25・26日
コンピュータ等研究委員会（札幌市）		
	宮崎　勝	
	柳瀬　茂樹	
	阪口　博治	
	菅野　聡	
	大沼　忠春	
	越田賢一郎	
	倉橋　直孝	
＊新任衛生管理者能力向上教育講習会（札幌市）		12月４・５日
	佐川　俊一	
	遠藤　香澄	
＊年末調整等説明会（江別市）		11月21日
	小杉　充	
	今本　広信	
＊公金運用セミナー（札幌市）		11月26日
	菅野　聡	
	磯田　千秋	
＊全国埋蔵文化財法人連絡協議会海外研修（韓国）		11月5～10日
	大泰司　統	
＊全国埋蔵文化財法人連絡協議会海外研修（中国）		11月29日～12月７日
	藤原　秀樹	
	広田　良成	
＊関西保存科学研究会・東北保存科学研究会交流会		11月30日～12月２日
	田口　尚	
＊南北海道考古学会情報交換会（長万部町）		12月１・２日
発表者　野田生２遺跡	立田　理	
栄浜１遺跡	大泰司　統	
青苗砂丘遺跡	皆川　洋一	
穂香竪穴群	村田　大	
＊「発掘された日本列島2002」実行委員会（東京）		12月10日
	越田　賢一郎	
	愛場　和人	

（２）遺跡見学会等協力

＊平成12年度遺跡発掘報告会（センター研修室）	４月21日
＊虎杖浜２遺跡体験発掘（白老町立虎杖浜中学校6名）	５月17日
＊虎杖浜２遺跡見学（白老町立白老小学校教諭理科サークル10名）	５月24日
＊西島松５遺跡体験発掘（札幌市立曙小学校37名）	６月６日
＊宮戸４遺跡見学（鵡川町立宮戸小学校16名）	６月７日
＊西島松５遺跡体験発掘（札幌市立あやめの小学校修学旅行65名）	６月27日
＊虎杖浜２遺跡見学（明治大学公開講座24名）	６月27日
＊西島松５遺跡体験発掘（札幌市立開成小学校修学旅行91名）	７月４日
＊宮戸４遺跡見学（二宮小学校15名）	７月13日

＊宮戸４遺跡見学（田浦小学校20名）　7月19日
＊白滝遺跡群（白滝３遺跡）見学（支湧別小学校16名）　7月23日
＊虎杖浜２遺跡体験発掘　7月25日
（平成13年度白老屋根のない博物館PR体験ツアー25名）
＊平成13年度北海道考古学会遺跡見学会（虎杖浜２遺跡）　7月28日
＊西島松５遺跡見学（苫小牧市博物館友の会40名）　7月28日
＊虎杖浜２遺跡体験発掘（白老町立虎杖小学校17名）　9月４日
＊野田生１遺跡見学（八雲町商工会）　9月９日
＊虎杖浜２遺跡体験発掘（白老町立白老小学校　3年　36名）　9月19日
＊虎杖浜２遺跡体験発掘（白老町立緑ヵ岡小学校60名）　9月20日
＊湯川左岸遺跡体験発掘（森町立湯川小学校８名）　9月26日
＊虎杖浜２遺跡体験発掘（白老町立白老小学校　5・6年　60名）　9月27日
＊穂香竪穴群発掘見学会（根室市民ほか45名）　9月29日
＊宮戸４遺跡見学（鵡川町高齢者大学34名）　10月５日

（３）部内研修・報告会
＊平成13年度現地研修会（八雲町）　9月７日
講師　元　東海大学助教授　稲葉和也
八雲町郷土資料館　三浦孝一
＊平成13年度現地調査報告会（センター研修室）　11月29日

（４）派遣・講演依頼
講師
＊平成12年度国立民族学博物館共同研究会（大阪市）　1月12～14日
《出席》　越田賢一郎
＊平成13年度アイヌ工芸品展出展資料調査（平取町）　1月23日
《派遣》　田口　尚
＊平成13年度アイヌ工芸品展出展資料調査（江別市）　1月24日
《派遣》　田口　尚
＊平成13年度アイヌ工芸品展出展企画委員会（札幌市）　1月25日
《派遣》　田口　尚
＊平成13年度アイヌ工芸品展出展企画委員会（苫小牧市）　2月８日
《派遣》　田口　尚
＊環日本海交流史研究集会（金沢市）　2月23日
《派遣》　越田賢一郎
＊考古学講座「考古学と民族（俗）学」（八戸市）　3月15日
《講師》　越田賢一郎
＊平成12年度遺跡発掘報告会（余市町）　3月18日
《派遣》　越田賢一郎
村田　大
＊市民のための「わかりやすい縄文講演会」（伊達市）　3月26・27日
《講師》　三浦　正人
＊平成13年度アイヌ工芸品展函館会場　5月28日～６月２日
《派遣》　田口　尚
＊アイヌ工芸品展の出展資料引継業務　7月２～５日
（市立函館博物館から苫小牧市博物館へ）
《派遣》　田口　尚

＊平成13年度財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構　　7月15日
普及啓発講演会（苫小牧会場）
《講師》　越田賢一郎
＊科学研究費補助金研究会（サハリン）　　7月23～27日
『サハリンから北東日本海域における古代・中世交流史の考古学的研究』
《派遣》　石井　淳平
＊平成13年度アイヌ工芸品展苫小牧会場における　　7月10日
展示作業及び資料状態の検査協力について
《派遣》　田口　尚
＊文部省科学研究費古人骨と動物遺存体に関する総合研究　　7月27・28日
シンポジウム北海道からの新視点
「もう一つの日本文化ー統縄文の人と文化を考えるー」
《派遣》　大沼　忠春
＊味の素食の文化センター研究助成に関する調査協力　　8月1日～3月末日（予定）
『近世アイヌ漆器椀の使用と流通に関する文化財科学的研究』
《派遣》　三浦　正人
田口　尚
鈴木　信
＊科学研究費補助金研究会（札幌市）　　8月9・10日
「サハリンから北東日本海域における古代・中世交流史の考古学的研究」
《派遣》　石井　淳平
＊アイヌ工芸品展の出展資料引継業務（釧路市立博物館）　　8月27日～9月1日
《派遣》　田口　尚
＊科学研究費補助金による研究協力　　8月24～27日
『日本列島南北端の住居形成過程に関する学際的研究』
（白老町、静内町、様似町、帯広市）
《派遣》　越田賢一郎
＊平成13年度社会科教育研修講座　　9月18日
《講師》　越田賢一郎
＊仙台藩白老元陣屋資料館講座　　10月11日
「虎杖浜2遺跡発掘調査報告会」
《講師》　佐藤　和雄
＊南茅部町垣ノ島B遺跡より発掘した、土坑墓（漆製品）　　2月13～15日
運搬のための処理指導依頼について（南茅部町）
《派遣》　田口　尚
＊石狩市紅葉山49号遺跡で発見されたヒグマの足跡の保存処理（石狩市）9月6日
《派遣》　田口　尚
＊「大釜谷3遺跡」出土物調査（木古内町）　　10月2日
《派遣》　田口　尚
＊泊村堀株1遺跡発掘調査（泊村）　　10月9日
《派遣》　越田賢一郎
＊石狩市紅葉山49号遺跡調査で発見された木製品の保存処理に関する指導助言（石狩市）
《派遣》　田口　尚　　10月25日
＊「埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究」　　11月1日・2日
《派遣》　長沼　孝
＊アイヌ工芸品展企画委員会（札幌市）　　11月21日

《派遣》　田口　尚
＊科学研究費補助金による研究　11月28・29日
『日本原始絵画の図像学的研究』
《派遣》　長沼　孝
＊栗山町開拓記念館収蔵物の鑑定等（栗山町）　12月５日
《派遣》　越田賢一郎
＊東北日本の旧石器文化を語る会　12月23・24日
《派遣》　長沼　孝
＊科学研究費補助による研究（富山市）　12月27～29日
《派遣》　石井　淳平
＊平成13年度国立民族学博物館共同研究会　12月13～16日
《出席》　越田賢一郎
＊平成13年度北海道考古学会遺跡調査報告会　12月15日
発表者　皆川　洋一『青苗砂丘遺跡』
村田　大『穂香竪穴群』
＊平成13年度国立民族学博物館共同研究員　4月1日～3月31日
《委嘱》　越田賢一郎

4　資料貸し出し等

提供先	目的	資料名・内容	期間
田中英司	学術刊行物『日本先史時代におけるデポの研究』に掲載	フィルム-東山５遺跡［石器出土写真（１点）］、嵐山２遺跡［石器出土写真（１点）］、国見２遺跡［石器出土写真（１点）］、西昭和２遺跡［石器出土写真（１点）］	
株式会社ワールドフォトプレス	『ナイフマガジン』2001年4月号に掲載	フィルム-二風谷遺跡［刀子・マキリ（１点）］、美々７遺跡［山刀（１点）］	
帯広市教育委員会	文化財保護専門委員会議で使用	ビデオ-函館空港遺跡群と縄文人の青函交流（１点）、縄文遺跡を探検しよう～函館空港遺跡群～（１点）	
株式会社ジャパン情報通信センター	『文化財発掘出土情報』2001年５月号『各地の動向』に掲載	フィルム-野田生１遺跡［朱塗り注口土器（１点）］	
国立歴史民俗博物館	館蔵資料目録『落合計領縄文時代遺物コレクション』に掲載	フィルム-矢不来天満宮［延叙歴検真図（１点）］	H13.4.20～6.30
有限会社新創社	東京書籍発行『ビジュアルワイド図説日本史』の掲載絵図に使用	フィルム-白滝遺跡群［尖頭器（１点）］	～7.2
北海道大学大学院文学研究科北方文化論講座　加藤博文	国際シンポジウムで発表のため	フィルム-白滝遺跡など（７枚）	
株式会社講談社	『再現日本史』に掲載	フィルム-西島松５遺跡［墓（１点）］	

※平成13年12月末日までに受付けたものを掲載した。

5　平成13年度刊行予定報告書一覧

第165集　『八雲町　山崎５遺跡』
北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書
第166集　『八雲町　山越３遺跡・山越４遺跡』
北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書
第167集　『八雲町　野田生２遺跡』
北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書
第168集　『鵡川町　宮戸４遺跡』
日高自動車道厚真門別道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
第169集　『白滝村　白滝遺跡群（Ⅲ）』
一般国道450号白滝丸瀬布道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
第170集　『根室市　穂香竪穴群（１）』
一般国道44号根室道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
第171集　『八雲町　野田生４遺跡』
北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書
第172集　『白老町　虎杖浜２遺跡（２）』
一般国道36号登別拡幅工事（虎杖浜工区）用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
第173集　『千歳市　チプニー１・チプニー２遺跡』
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
第174集　『千歳市　ケネフチ９遺跡』
舞鶴追分線特改一種工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
第175集　『八雲町　栄浜１遺跡』
北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書
第176集　『千歳市　ユカンボシC15遺跡（５）』
北海道横断自動車道（千歳～夕張）埋蔵文化財発掘調査報告書
第177集　『江別市　対雁２遺跡（３）』
石狩川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

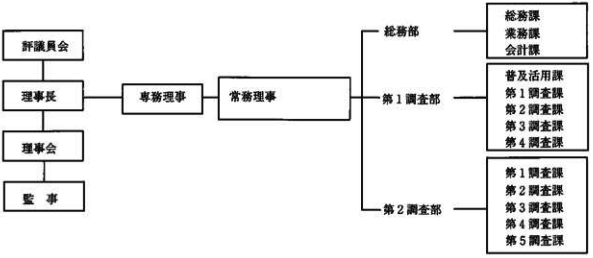
6　組織・機構

役　員（平成13年12月31日現在）

理事長	大澤　満	
専務理事	宮崎　勝	
常務理事	（木村尚俊　7月17日死去）	
理　事	朝野　隆	（北海道札幌東高等学校長）
理　事	石林　清	（北海道教育文化協会理事長）
理　事	岡田宏明	（北海道立北方民族博物館長）
理　事	菊池俊彦	（北海道大学教授）
理　事	北川芳男	（日本地質学会名誉会員）
理　事	田端　宏	（道都大学教授）
理　事	峰谷光雄	（由仁町教育委員会教育長）
監　事	村山邦彦	（財団法人北海道生涯学習協会副会長）
監　事	佐藤一夫	（苫小牧市勇武津資料館長）

評議員（平成13年12月31日現在）

評議員	加藤邦雄	（札幌市埋蔵文化財センター埋蔵文化財担当課長）
評議員	串田俊巳	（北海道教育庁企画総務部教育政策課長）
評議員	佐藤俊和	（北海道教育庁生涯学習部文化課長）
評議員	昌子守彦	（酪農学園大学教授）
評議員	高橋　侃	（江別市教育委員会教育長）
評議員	鶴丸俊明	（札幌学院大学助教授）
評議員	永井秀夫	（北海道大学名誉教授）
評議員	野村　崇	（財団法人北海道開拓の村学芸課長）
評議員	藤原道弘	（江別市立江別第一中学校長）
評議員	森重楨一	（北海道教育庁生涯学習部次長）



7　職員（平成13年12月31日現在）

総務部

総務部長	○柳瀬　茂樹
総務課長	○阪口　博治
主査	菅野　聡
主任	小杉　充
主事	小笠原　学
参与	金谷　英男
技師	小笠原貞夫
会計課長	吉田貴和子
主査	礫田　千秋
主事	今本　宏信
業務課長	○村山　誠己
主査	葛西　宏昭
主事	中村　貴志
参与	市原　祺清

第1調査部

第1調査部長（兼務）	○大沼　忠春
普及活用課長	○越田賢一郎
主査	藤本　昌子
主任	皆川　洋一
主任	倉橋　直孝
主任	愛場　和人
第1調査課長	立川トマス
主査	花岡　正光
主査	田口　尚
第2調査課長	西田　茂
主査	鎌田　望
主任	芝田　直人
文化財保護主事	柳瀬　由佳
第3調査課長	○長沼　孝
主査	越田　雅司
主任	村田　大
主任	鈴木　宏行
文化財保護主事	広田　良成
文化財保護主事	直江　康雄
第4調査課長	遠藤　香澄
主任	○中田　裕香
主任	○藤原　秀樹
文化財保護主事	立田　理

第2調査部

第2調査部長	○大沼　忠春
第1調査課長	○種市　幸生
主任	菊池　慈人
主任	藤井　浩
文化財保護主事	坂本　尚史
文化財保護主事	福井　淳一
第2調査課長	佐藤　和雄
主査	和泉田　毅
主任	土肥　研晶
主任	新家　水奈
主任	末光　正卓
文化財保護主事	佐藤　剛
文化財保護主事	石井　淳平
第3調査課長	佐川　俊一
主任	笠原　興
文化財保護主事	阿部　明義
文化財保護主事	冨永　勝也
文化財保護主事	山中　文雄
第4調査課長	熊谷　仁志
主査	谷島　由貴
主任	中山　昭大
主任	影浦　覚
主任	袖岡　淳子
文化財保護主事	大泰司　統
第5調査課長	三浦　正人
主査	鈴木　信
主任	○西脇対名夫
文化財保護主事	吉田裕吏洋
文化財保護主事	酒井　秀治

○：北海道教育庁の派遣職員

8　訃報

平成13（2001）年７月17日、当センター常務理事（兼第１調査部長）の木村尚俊が、享年58歳で急逝いたしました。経歴と業績を紹介し、追悼の意を表したいと思います。

木村尚俊　略歴

昭和19（1944）年1月10日	台湾にて出生　その後熊本に移る
昭和37（1962）年3月	大分県日田高校卒業
昭和41（1966）年3月	早稲田大学教育学部卒業
昭和46（1971）年3月	北海道大学大学院文学研究科博士後期課程日本史学専攻退学
昭和46（1971）年4月	北海道大学文学部附属北方文化研究施設助手
昭和48（1973）年4月	北海道教育庁文化課勤務
昭和54（1979）年9月	(財)北海道埋蔵文化財センター派遣 苫小牧市フレペツ遺跡群の調査に従事
昭和55（1980）年	千歳市・苫小牧市美沢川流域の遺跡群の調査に従事
昭和56（1981）年	江別市吉井の沢1遺跡、上磯町戸切地陣屋跡の調査に従事
昭和57（1982）年	登別市千歳５遺跡、泊村堀株１、堀株２遺跡の調査に従事
昭和58（1983）年4月	北海道教育庁文化課勤務
平成11（1999）年8月	北海道教育庁文化課参事、(財)北海道埋蔵文化財センター常務理事（派遣）
平成13（2001）年7月17日	逝去

著　作　目　録

（論文）

発行年月	論文名	掲載書・掲載誌	発行者
昭和50(1975)年12月	「縄文文化早期」	『北海道史研究』第９号	北海道史研究会
昭和55(1980)年5月	「川民南チャシ・弁天1号チャシ・弁天2号チャシ」	『日本城郭大系 1』北海道・沖縄	新人物往来社
昭和55(1980)年5月	「縄文文化早期」	『北海道考古学講座』	みやま書房
昭和56(1981)年8月	「千歳美沢川遺跡群」	『北海道大百科事典・下』	北海道新聞社
昭和57(1982)年4月	「北海道美沢4遺跡」	『日本考古学年報 32 /1979年度版』	日本考古学協会（共著）
昭和59(1984)年2月	「周堤墓」	『北海道の研究 1』考古篇Ⅰ	清文堂
昭和63(1988)年5月	「北海道」	『月刊考古学ジャーナル』№291　特集：1987年の考古学界の動向	ニュー・サイエンス社
平成８(1996)年3月	「北からの移住者」	『北海道の歴史 60話』	三省堂
平成13(2001)年7月	「北国の発掘調査あれこれ」	『月刊考古学ジャーナル』№475	ニュー・サイエンス社

（報告書）

発行年月	報告書名	発行者
昭和50(1975)年6月	『遠矢第2チャシ跡遺跡調査報告書』	北海道教育委員会
昭和51(1976)年3月	『香深井遺跡・上巻』	東京大学出版会
昭和53(1978)年3月	『北海道縦貫自動車道（北広島～札幌南）埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書-広島町大曲B・C遺跡-』	北海道教育委員会
昭和55(1980)年3月	『フレペツ遺跡群-新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書-』	(財)北海道埋蔵文化財センター
昭和56(1981)年3月	『美沢川流域の遺跡群Ⅳ-新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書-』	(財)北海道埋蔵文化財センター
昭和57(1982)年3月	『史跡松前藩戸切地陣屋跡-昭和56年度概要報告-』	上磯町教育委員会
昭和58(1983)年3月	『千歳５遺跡』	(財)北海道埋蔵文化財センター

調 査 年 報 14

平成13年度

平成14年３月８日発行

編集・発行　財団法人北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832　江別市西野幌685-1
TEL 011-386-3231・FAX 011-386-3238
URL:http://www.domaibun.or.jp
E-mail:mail@domaibun.or.jp

印　　刷　株式会社須田製版
〒063-8603
札幌市西区二十四軒2条6丁目1番8号
TEL011-621-0275㈹